

基本計画書

基本計画書											
事項	記入欄								備考		
計画の区分	学部の設置										
フリガナ設置者	ガッコウホクシン ハナヅリガクエン 学校法人 花園学園										
フリガナ大学の名称	ハナヅリガク 花園大学										
大学本部の位置	京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1										
大学の目的	本学は高等の知識を授け、専門の学術を教授研究し、仏教精神によって人格を陶冶し、人類文化に貢献する人物の養成を目的とする。										
新設学部等の目的	深刻な小学校教員不足に対処するとともに、小学校教育の質の向上に資するため、教育学部初等教育学科を設置し、Reflection（ふりかえり）とResilience（しなやかさ）を兼ね備え、特別支援教育についても基礎的な理解と能力を有する小学校教員の養成を行う。あわせて、特別支援学校及び幼稚園の教員並びに保育士の養成も行う。										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地		
	教育学部	年	人	年次人	人	学士 (教育学)	教育学・ 保育学関係	年月 第 年次	京都府京都市中 京区西ノ京壺ノ 町8-1		
	初等教育学科	4	80	—	320			令和8年4月 第1年次			
	計	4	80	—	320						
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	社会福祉学部 児童福祉学科（廃止） △80（令和8年4月） * 令和8年4月学生募集停止										
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数				
	教育学部 初等教育学科	講義	演習	実験・実習	計	133科目	91科目	12科目	236科目	124 単位	
新設	学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
			教授	准教授	講師	助教	計				
	設	教育学部 初等教育学科		9 (8)	2 (1)	5 (5)	0 (0)	16 (14)	0 (0)	67 (48)	
				a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		9 (8)	2 (1)	5 (5)	0 (0)	16 (14)	8
				b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
				小計（a～b）		9 (8)	2 (1)	5 (5)	0 (0)	16 (14)	
				c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
				d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計（a～d）		9 (8)	2 (1)	5 (5)	0 (0)	16 (14)				
	分	計		9 (8)	2 (1)	5 (5)	0 (0)	16 (14)	0 (0)	67 (48)	

既	文学部 仏教学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	26 (26)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 4 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (7)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	3 (3)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	7 (7)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)			
文学部 日本史学科	6 (6)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (9)	0 (0)			25 (25)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	4 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (7)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	4 (4)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	7 (7)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	6 (6)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (9)				
文学部 日本文学科	3 (3)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	9 (9)			0 (0)	27 (27)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	3 (3)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	7 (7)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	3 (3)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	7 (7)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	2 (2)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	3 (3)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	9 (9)				
設									

社会福祉学部 社会福祉学科		4 (4)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	28 (28)	大学設置基準別 表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)	/	/	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		4 (4)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	8 (8)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		4 (4)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
社会福祉学部 臨床心理学科		6 (6)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	17 (17)	大学設置基準別 表第一に定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		4 (4)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	10 (10)	/	/	
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（a～b）		4 (4)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	10 (10)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)			
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）		6 (6)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	12 (12)			
計		23 (23)	8 (8)	17 (17)	0 (0)	48 (48)	0 (0)	- (-)	
合 計		32 (31)	10 (9)	22 (22)	0 (0)	64 (62)	0 (0)	180 (171)	
職 種		専 属			そ の 他			計	
事 務 職 員		46 (46)			29 (29)			75 (75)	
技 術 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)	
図 書 館 職 員		1 (1)			0 (0)			1 (1)	
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)	
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)	
計		47 (47)			29 (29)			76 (76)	
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用			計	借用面積： 1,415㎡ 借用期間： 平成19年5月 1日～令和39 年4月30日	
	校 舎 敷 地	67,265 ㎡	0 ㎡	67,265 ㎡			67,265 ㎡		
	そ の 他	1,728 ㎡	0 ㎡	1,728 ㎡			1,728 ㎡		
	合 計	68,993 ㎡	0 ㎡	68,993 ㎡			68,993 ㎡		
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用			計		
		29,467 ㎡ (29,467 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)			29,467 ㎡ (29,467 ㎡)		
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	99 室	教 員 研 究 室			16 室		
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図 書		学 術 雑 誌		機 械 ・ 器 具	標 本	大学全体での共 用分を含む 図書10,000冊 [1,000冊] 学術雑誌 1,000冊 [200冊]	
		〔うち外国書〕 冊	電 子 図 書 〔うち外国書〕	〔うち外国書〕 種	電 子 ジャー ナ ル 〔うち外国書〕				
	教育学部 初等教育学科	20,000 [1,000] (12,400 [600])	2,200 [100] (1,400 [60])	1,500 [100] (1,200 [100])	100 [10] (60 [6])	0 (0)	0 (0)		
	計	20,000 [1,000] (12,400 [600])	2,200 [100] (1,400 [60])	1,500 [100] (1,200 [100])	100 [10] (60 [6])	0 (0)	0 (0)		

スポーツ施設等		スポーツ施設			講堂		厚生補導施設		
		1,967 m ²			265 m ²		4,884 m ²		
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		500千円	500千円	500千円	500千円	— 千円	— 千円	
	共同研究費等		4,200千円	4,200千円	4,200千円	4,200千円	— 千円	— 千円	
	図書購入費	51,000千円	63,095千円	42,057千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	35,614千円	11,132千円	15,964千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			1,249千円	1,049千円	1,049千円	1,049千円	— 千円	— 千円	
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資金運用収入、寄付金収入、雑収入等							
既設大学等の状況	大学等の名称	花園大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		
	文学部						0.79		
	仏教学科	4	35	—	140	学士（文学）	0.61	昭和41年度	京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1
	日本史学科	4	65	—	260	学士（文学）	0.96	昭和41年度	同上
	日本文学科	4	60	—	240	学士（文学）	0.72	昭和41年度	同上
	社会福祉学部						0.81		
	社会福祉学科	4	80	—	320	学士（社会福祉学）	0.95	平成4年度	同上
	臨床心理学科	4	85	—	340	学士（臨床心理学）	0.94	平成14年度	同上
	児童福祉学科	4	80	—	320	学士（児童福祉学）	0.53	平成21年度	同上
	文学研究科						0.50		
	仏教学専攻（修士課程）	2	5	—	10	修士（文学）	0.90	平成6年度	同上
	日本史学専攻（修士課程）	2	5	—	10	修士（文学）	0.40	平成6年度	同上
	日本文学専攻（修士課程）	2	5	—	10	修士（文学）	0.20	平成9年度	同上
	仏教学専攻（博士課程後期）	3	2	—	6	博士（文学）	0.50	平成12年度	同上
	社会福祉学研究科						0.15		
社会福祉学専攻（修士課程）	2	10	—	20	修士（社会福祉学）	0.15	平成10年度	同上	
附属施設の概要	<p>歴史博物館 目的：博物館は、歴史学に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード、電磁的資料等の博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究を行い、教育並びに研究の発展に資することを目的とする。 所在地：京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1 花園大学 無聖館4階 面積：449.4m² 設置年月：平成12年3月</p> <p>国際禅学研究所 目的：研究所は次の各号の目的を有する。(1) 禅学に関する研究とその成果の公開、(2) 禅学に関連する諸領域の研究とその成果の公開、(3) 研究者の養成、(4) 学術文化の国際交流、(5) 本学における禅的教育と宗教活動の向上充実をはかり建学の精神に資すること 所在地：京都府京都市中京区西ノ京壺ノ内町8-1 花園大学 無聖館3階 面積：342.1m² 設置年月：昭和61年4月</p>								

(注)

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積り及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
（教育学部初等教育学科）																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 （助 手 を 除 く の 教 員
基礎 科目	初等教育入門	1前	○	2			○			8	2	5				オムニバス
	障害児教育総論	1前	○	2			○			1						
	教育原理	1後	○	2			○			1						
	教職概論	1後	○	2			○			1						
	特別支援教育論	1後	○	2			○			1						
	教育方法論	1後	○	2			○			1						
	ICTを活用した教育の理論と方法	1後	○	2			○					1				
	心身の発達と学習の心理学	2後	○	2			○				1					
	教育課程論	3前	○	2			○			1						
	教育相談の理論と方法	3前	○	2			○								1	
	教育社会・制度論	3後	○	2			○								1	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2前			2		○			1						
	道徳教育の理論と指導法	3後			2		○			1						
	生徒指導の理論と方法（進路指導を含む）	3後			2		○			1						
	子ども理解の理論と方法	2後			1			○				1				
	保育原理	1前			2		○				1					
	子ども家庭福祉	1後			2		○								1	
	社会福祉	1前			2		○								1	
	子ども家庭支援論	3前			2		○								1	
	社会的養護I	2前			2		○								1	
	保育者論	1後			2		○				1					
小計（21科目）	—	—	—	22	19	0	—	—	—	9	2	5	0	0	6	
専門 科目	初等国語科（書写を含む）	2前	○	2			○					1			1	オムニバス
	初等社会科	2後	○	2			○			1						
	初等算数科	2前	○	2			○			1						
	初等理科	2後	○	2			○			1						
	初等生活科	1後		2			○			1						
	初等音楽科	3前		2			○			1						
	初等図画工作科	2後		2			○					1				
	初等家庭科	1後		2			○								1	
	初等体育科	3前		2			○					1				
	初等英語科	2前		2			○								1	
	初等国語科指導法	2後	○	2			○					1				
	初等社会科指導法	3前	○	2			○			1						
	初等算数科指導法	2後	○	2			○			1						
	初等理科指導法	3前	○	2			○			1						
	初等生活科指導法	2前	○	2			○			1						
	初等音楽科指導法	3後	○	2			○			1						
	初等図画工作科指導法	3前	○	2			○					1				
	初等家庭科指導法	3前	○	2			○								1	
	初等体育科指導法	3後	○	2			○					1				
	初等英語科指導法	2後	○	2			○								1	
幼保 科目	保育内容総論	1後	○	1			○				1					
	子どもと健康	1後	○	1			○									
	子どもと人間関係	1後	○	1			○								1	
	子どもと環境	1後	○	1			○			1						
	子どもと言葉	1後	○	1			○								1	
	子どもと表現（造形）	1後	○	1			○					1				
	子どもと表現（音楽）	2前	○	1			○			1						
	健康領域指導法Ⅰ	2前	○	1			○			1						
健康領域指導法Ⅱ	2後	○	1			○			1							

教育課程等の概要																	
(教育学部初等教育学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
幼保科目	人間関係領域指導法Ⅰ	2前	○		1			○							1		
	人間関係領域指導法Ⅱ	2後	○		1			○							1		
	環境領域指導法Ⅰ	2前	○		1			○		1							
	環境領域指導法Ⅱ	2後	○		1			○		1							
	言葉領域指導法Ⅰ	2前	○		1			○							1		
	言葉領域指導法Ⅱ	2後	○		1			○							1		
	表現領域(造形)指導法	2前	○		1			○			1						
	表現領域(音楽)指導法	2後	○		1			○		1							
	子どもの保健	2前			2			○							1		
	子どもの健康と安全	2後			1				○						1		
	子どもの食と栄養Ⅰ	2前			1				○						1		
	子どもの食と栄養Ⅱ	2後			1				○						1		
	乳児保育Ⅰ	2前			2			○									
	乳児保育Ⅱ	2後			1				○			1					
	社会的養護Ⅱ	2後			1				○						1		
	子ども家庭支援の心理学	3前			2			○				1					
	保育の計画と評価	3前			2			○							1		
	障害児保育Ⅰ	3前			1				○			1					
	障害児保育Ⅱ	3後			1				○			1					
	子育て支援	3後			1				○		1						
専門科目	知的障害児の心理	2前	○		2			○			1				1		
	知的障害児の生理・病理	2後			2			○							1		
	肢体不自由児の心理・生理・病理	3前			2			○							1		
	病弱児の心理・生理・病理	3後			2			○							2		
	特別支援教育指導法	2前	○		2			○				1					
	知的障害児教育	2前	○		2			○				1					
	肢体不自由児教育	3前			2			○							1		
	病弱児教育	3後			2			○							1		
	視覚障害総論	2後			2			○							1		
	聴覚障害総論	3前			2			○			1				1		
重複LD等教育総論	3後			2			○			1				1			
小計(60科目)	—	—	0	95	0			—		6	2	4	0	0	17		
実習科目	観察実習	1前	○	1					○		3	1	3				共同
	教職体験活動Ⅰ	2後	○		3				○		5		1				共同
	教職体験活動Ⅱ	3後	○		1				○		1						
	教職体験活動Ⅲ	4後	○		1				○		1						
	教育実習事前事後指導	4前	○		1			○			4		2				共同
	教育実習(幼小)	4通	○		4				○		4		2				共同
	保育実習指導Ⅰ(施設)	3前	○		1			○			1	1					共同
	保育実習指導Ⅰ(保育所)	3後	○		1			○				1	1				共同
	保育実習Ⅰ(施設)	3前	○		2				○		1	1					共同
	保育実習Ⅰ(保育所)	3後	○		2				○			1	1	1			共同
	保育実習指導Ⅱ	4前	○		1			○				1	1				共同
	保育実習指導Ⅲ	4前	○		1			○			1	1					共同
	保育実習Ⅱ	4前	○		2				○			1	1				共同
	保育実習Ⅲ	4前	○		2				○		1	1					共同
	教職実践演習(幼小)	4後	○		2			○			4		2				共同
	保育・教職実践演習	4後	○		2			○			1	2	1				共同
	特別支援学校教育実習指導	4前	○		1			○			1		1				共同
	特別支援学校教育実習	4通	○		2				○		1		1				共同
小計(18科目)	—	—	1	29	0			—		7	2	4	0	0	0		

教育課程等の概要																
(教育学部初等教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
専門科目 展開科目	多様な子どもの理解と支援	2前			2			○			1					オムニバス 共同 共同 共同 共同 共同 共同
	多文化社会と学校園の教育	2後			2			○			1					
	AIおよび教育データ活用入門	3前			1				○				1			
	地域と学校園	3後			2				○			2				
	初等教育セミナー（基礎）Ⅰ	3前	○	1					○		8	2	5			
	初等教育セミナー（基礎）Ⅱ	3後	○	1					○		8	2	5			
	初等教育セミナー（基礎）Ⅲ	4前			1				○		8	2	5			
	初等教育セミナー（基礎）Ⅳ	4後			1				○		8	2	5			
	初等教育セミナー（発展）Ⅰ	4前	○	1					○		8	2	5			
	初等教育セミナー（発展）Ⅱ	4後	○	1					○		8	2	5			
卒業研究	4通	○	8					○		8	2	5				
小計（11科目）	—	—	—	12	9	0		—		8	2	5	0	0	0	
必修区分	基礎神学	1前	○	2				○							1	分担 分担
	人権総論	1後	○	2				○							1	
	英語Ⅰ	1前	○	1					○						4	
	英語Ⅱ	1後	○	1					○						4	
	学びのナビゲーション：大学入門	1前	○	2					○		4	1	3			
	学びのナビゲーション：進路を考える	2後	○	2					○		4	1	3			
小計（6科目）	—	—	—	10	0	0		—		4	1	3	0	0	6	
基礎教育科目 選択区分 外国語科目群	心理学概論	1-2-3-4後			2			○							1	隔年 隔年
	禅とこころⅠ	2-3-4前			2			○							1	
	禅とこころⅡ	2-3-4後			2			○							1	
	国のしくみ（日本国憲法）	2-3-4前	○		2				○						1	
	アカデミック・ライティング入門	1-2-3-4後			1					○			1			
	ボランティアの理論と実践Ⅰ	1-2-3-4前			1					○				1		
	ボランティアの理論と実践Ⅱ	1-2-3-4後			1					○				1		
	General EnglishⅠ	1-2-3-4前			1					○					1	
	General EnglishⅡ	1-2-3-4後			1					○					1	
	English WorkshopⅠ	1-2-3-4前			1					○					1	
	English WorkshopⅡ	1-2-3-4後			1					○					1	
	Listening SkillsⅠ	1-2-3-4前			1					○					1	
	Listening SkillsⅡ	1-2-3-4後			1					○					1	
	Reading SkillsⅠ	1-2-3-4前			1					○					1	
	Reading SkillsⅡ	1-2-3-4後			1					○					1	
	異文化理解Ⅰ	1-2-3-4前			2				○						1	
	異文化理解Ⅱ	1-2-3-4後			2				○						1	
	Communicative EnglishⅠ	1-2-3-4前			1					○					1	
	Communicative EnglishⅡ	1-2-3-4後			1					○					1	
	TOEICコースⅠ	1-2-3-4前			1					○					1	
	TOEICコースⅡ	1-2-3-4後			1					○					1	
	時事英語Ⅰ	1-2-3-4前			2				○						1	
	時事英語Ⅱ	1-2-3-4後			2				○						1	
	短期留学（英語）	2-3-4前			4						○				1	
	ハングル入門Ⅰ	1-2-3-4前			2						○				2	
	ハングル入門Ⅱ	1-2-3-4後			2						○				2	
	韓国文化Ⅰ	1-2-3-4前			2				○						1	
韓国文化Ⅱ	1-2-3-4後			2				○						1		
ハングル実用会話Ⅰ	1-2-3-4前			1						○				1		
ハングル実用会話Ⅱ	1-2-3-4後			1						○				1		

教育課程等の概要																
(教育学部初等教育学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
外国語科目群	中国語入門Ⅰ	1-2-3-4前			2				○						1	隔年 隔年
	中国語入門Ⅱ	1-2-3-4後			2				○						1	
	中国理解Ⅰ	1-2-3-4前			1				○						1	
	中国理解Ⅱ	1-2-3-4後			1				○						1	
	中国語会話Ⅰ	1-2-3-4前			1				○						1	
	中国語会話Ⅱ	1-2-3-4後			1				○						1	
	中国語初級Ⅰ	1-2-3-4前			1				○						1	
	中国語初級Ⅱ	1-2-3-4後			1				○						1	
	中国文化論Ⅰ	1-2-3-4前			2			○							1	
	中国文化論Ⅱ	1-2-3-4後			2			○							1	
短期留学(中国語)	1-2-3-4前			2					○					1		
基礎教育科目 選択区分 体育科目群	体育実技Ⅰ	1-2-3-4前			1				○						1	
	体育実技Ⅱ	1-2-3-4前			1				○						1	
	体育実技Ⅲ	1-2-3-4前			1				○						1	
	体育実技Ⅳ	1-2-3-4前			1				○						1	
	体育実技Ⅴ	1-2-3-4前			1				○						1	
	体育実技Ⅵ	1-2-3-4前			1				○						1	
	体育実技Ⅶ	1-2-3-4前			1				○						1	
	体育実技Ⅹ	1前・後	○		1				○			1			1	
	体育実技ⅩⅠ	1-2-3-4後			1				○						1	
	体育実技ⅩⅡ	1-2-3-4後			1				○						1	
	体育実技ⅩⅢ	1-2-3-4後			1				○						1	
	体育実技ⅩⅣ	1-2-3-4後			1				○						1	
	体育実技ⅩⅤ	1-2-3-4後			1				○						1	
	体育実技ⅩⅥ	1-2-3-4後			1				○						1	
	体育実技ⅩⅦ	1-2-3-4後			1				○						1	
	スポーツ社会学	1-2-3-4前			2			○							1	
	健康学	1-2-3-4前			2			○							1	
	運動科学論	1-2-3-4前			2			○							1	
	アダブテッド・エクササイズ論	1-2-3-4後			2			○							1	
	健康運動処方論	1-2-3-4後			2			○							1	
	健康運動実技指導論と実際	1-2-3-4前			2			○							1	
	エアロビック・エクササイズ	1-2-3-4前			2			○							1	
	ストレッチングの理論と実際	1-2-3-4前			2			○							1	
	筋力トレーニングの理論と実際	1-2-3-4後			2			○							1	
	スポーツ心理学	1-2-3-4前			2			○							1	
	救命救急処置	1-2-3-4後			2			○							1	
	運動障害と予防	1-2-3-4後			2			○							1	
コーチング学	1-2-3-4前			2			○							1		
情報処理科目群	情報基礎	1-2-3-4前			1			○							1	
	学校教育における情報基礎	1前	○		2			○				1				
	情報と社会	1-2-3-4前			2			○					1			
	パーソナル・コンピュータ活用技術A	1-2-3-4前			2				○						1	
	パーソナル・コンピュータ活用技術B	1-2-3-4後			2				○						1	
	コンピュータ・ネットワーク入門	1-2-3-4後			2			○							1	
	大学生のための情報処理入門	1-2-3-4前・後			1				○			1				
	表計算入門	1-2-3-4前			1				○			1			1	
	表計算中級	1-2-3-4後			1				○			1			1	
	データサイエンス入門	2-3-4前			2			○							1	
データサイエンス演習	2-3-4後			1				○						1		

教育課程等の概要																	
(教育学部初等教育学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
基礎教育科目	選択区分 総合科目群	臨床死生学論Ⅰ	2・3・4前		2		○							1			
		臨床死生学論Ⅱ	2・3・4後		2		○							1			
		哲学概論Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		哲学概論Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		東洋史概説Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		東洋史概説Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		自然地理学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		自然地理学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		人文地理学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		人文地理学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		地誌学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		地誌学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		日本政治史Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		日本政治史Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		日本経済史Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		日本経済史Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		図書館概論	1・2・3・4前		2		○							1			
		図書館制度・経営論	1・2・3・4後		2		○							1			
		古代史概説	1・2・3・4前		2		○							1			
		中世史概説	1・2・3・4後		2		○							1			
		近世史概説	1・2・3・4前		2		○							1			
		近現代史概説	1・2・3・4後		2		○							1			
		倫理学Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		倫理学Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		書道概論Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		書道概論Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		日本文学概論(古典)	1・2・3・4前		2		○							1			
		日本文学概論(近現代)	1・2・3・4後		2		○							1			
		福祉サービスの組織と経営	1・2・3・4後		2		○							1			
		法学(国際法を含む)Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		法学(国際法を含む)Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		社会政策論Ⅰ	1・2・3・4前		2		○							1			
		社会政策論Ⅱ	1・2・3・4後		2		○							1			
		権利擁護を支える法制度	1・2・3・4前		2		○							1			
		社会学と社会システム	1・2・3・4前		2		○							1			
		障害者・障害児心理学	1・2・3・4前		2		○				1						
		臨床心理学概論	1・2・3・4前		2		○							1			
		教育・学校心理学	1・2・3・4前		2		○							1			
		発達心理学	1・2・3・4前		2		○							1			
		社会・集団・家族心理学	1・2・3・4前		2		○							1			
		小計(120科目)		—	—	0	199	0	—	—	—	1	0	3	0	0	42
		合計(236科目)		—	—	45	351	0	—	—	—	9	2	5	0	0	67

教育課程等の概要															
(教育学部初等教育学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学位又は称号		学士(教育学)		学位又は学科の分野			教育学・保育学関係								
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等								
卒業所要単位は124単位であり、コース毎の履修方法及び修了要件は以下の通りとする。 履修科目の登録上限は、年間48単位とする。2年次以降、成績優秀者(年間GPA2.8以上)に限り60単位に緩和する。 【小学校教育コース】 ・専門科目(99単位以上) ・基礎科目 28単位必修(必修科目は以下の通り) 必修22単位の他に、特別活動及び総合的な学習の時間の指導法、生徒指導の理論と方法(進路指導含む)、道徳教育の理論と指導法を履修すること。 ・小学校科目から28単位必修(必修科目は以下の通り) 初等国語科(書写を含む)、初等社会科、初等算数科、初等理科、初等国語科指導法、初等社会科指導法、初等算数科指導法、初等理科指導法、初等生活科指導法、初等図画工作科指導法、初等家庭科指導法、初等音楽科指導法、初等体育科指導法、初等英語科指導法 ・実習科目 12単位必修(必修科目は以下の通り) 観察実習、教職体験活動Ⅰ、教職体験活動Ⅱ、教育実習事前事後指導、教育実習(幼小)、教職実践演習(幼小) ・展開科目 12単位必修 ・基礎科目、小学校科目、幼保科目、特別支援科目、実習科目、展開科目より19単位選択必修 ・基礎教育科目(25単位以上) ・必修区分 10単位必修 ・選択区分 15単位以上選択必修 【幼児教育コース】 ・専門科目(99単位以上) ・基礎科目 23単位必修(必修科目は以下の通り) 必修22単位の他に、子ども理解の理論と方法を履修すること。 ・幼保科目から17単位必修(必修科目は以下の通り) 保育内容総論、子どもと健康、子どもと人間関係、子どもと環境、子どもと言葉、子どもと表現(造形)、子どもと表現(音楽)、健康領域指導法Ⅰ、健康領域指導法Ⅱ、人間関係領域指導法Ⅰ、人間関係領域指導法Ⅱ、環境領域指導法Ⅰ、環境領域指導法Ⅱ、言葉領域指導法Ⅰ、言葉領域指導法Ⅱ、表現領域(造形)指導法、表現領域(音楽)指導法 ・実習科目 1単位必修(観察実習) ・展開科目 12単位必修 ・基礎科目、幼保科目、特別支援科目、実習科目、展開科目より46単位選択必修 ・基礎教育科目(25単位以上) ・必修区分 10単位必修 ・選択区分 15単位以上選択必修							1学年の学期区分		2期						
							1学期の授業期間		15週						
							1時限の授業の標準時間		90分						

授 業 科 目 の 概 要				
(教育学部初等教育学科)				
科目	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容 200～400字	備考
専門科目	基礎科目	初等教育入門	○ (概要) 本授業では、現代社会における初等教育と教育一般の諸課題について概括的に理解し、これからの教師・保育者に必要とされる専門的知識や技術と技能、実践的知識と見識を身につけるための展望―本学での学びとその後の将来設計―を得ることを目的とする。具体的には、自分がどのような教師や保育者をめざすのか、そのセルフ・イメージを育むための基礎的な知識と理解を得るとともに、あわせて、本学部の教育課程の特徴を把握したうえで、各自の学びの目標を設定し、それぞれの履修計画と到達目標を策定する。専任教員によるオムニバス形式で講義を行う。 (オムニバス/全15回) (1 松下晴彦/1回) 第1回授業の趣旨の説明と教員紹介 (3 藤井浩史/1回) 第2回小学校教員の仕事とその魅力 (10 林 悠子/1回) 第3回幼稚園教員・保育者の仕事とその魅力 (9 安田誠人/1回) 第4回特別支援学校教員の仕事とその魅力 (15 三好真史/1回) 第5回授業づくりの魅力と基本：国語 (5 北林雅洋/1回) 第6回授業づくりの魅力と基本：理科 (6 岸本 実/1回) 第7回授業づくりの魅力と基本：社会 (4 菅 道子/1回) 第8回授業づくりの魅力と基本：音楽 ※令和8年度は外部講師として実施 (12 芦田風馬/1回) 第9回授業づくりの魅力と基本：図画工作 (13 川島民子/1回) 第10回授業づくりの魅力と基本：特別支援 (7 炭谷正史/1回) 第11回人間形成空間のデザイン：子どもと遊び (① 等々力花歩/1回) 第12回子どもの心理 (11 山口真希/1回) 第13回子どもの心理と発達 ※令和8年度は兼任教員として実施 (14 久富 望/1回) 第14回子どもとメディア (2 木村 裕/1回) 第15回総括：教師の学びとその基本	オムニバス
専門科目	基礎科目	障害児教育総論	○ 本講義は、特別支援学校教諭免許取得のための必須講義であることから、特別支援教育の歴史や理念など基礎的知識を学び、特別支援教育の教育内容や教育方法を学ぶ。そして、特別支援学校教員として必要な、特別支援教育対象児の実態把握や特別支援教育対象児の特性や具体的教育実践について学ぶことを目的とする。適宜DVD等を利用し、教育の実際を通して学ぶことを行う。	
専門科目	基礎科目	教育原理	○ 専門職としての教育職に就くにあたっては、教育と教育に関連する諸概念と理念についての知見と深い理解を有することが基本的な要件である。この講義では、この要件を満たすために、人類が歩んできた教育の歴史や思想を学びながら、教育の意義や教育を成り立たせるものについての知見を得るとともに、さらに、教育問題を解明し解決へと展開するための洞察力を養うことを目的とする。より具体的には、人類の歴史において、意図的な教育がどのように意識され実践されてきたか、また現代社会に特有な教育に対する見方や考え方がどのように出現し、人々に共有されるようになったかについて概説する。次に、教育思想や教育哲学の潮流を概観し、特に現代教育に対し大きな影響のあった教育思想・哲学を重点的に考察していく。最後に、近代の国民国家の形成、近代教育制度の成立、子どもと家族、社会、国家の関係性、個人と国家、21世紀の人材育成等、社会問題・教育課題について理解を深める。	
専門科目	基礎科目	教職概論	○ 本授業は、グループを編成し、グループワークを中心にアクティブ・ラーニング型の授業で行い、学生たち自身で、「めざす教員像」を構築していくことを目標とするものである。内容は、教職の意義や教員の役割、職務内容などの理解を図り、教職の基本的な知識を習得する。また、中高教員の魅力や教育の難しさを議論し合い、そのなかで、いま教員にそのなかで、いま教員に求められているものを明らかにしていく。「教育とは何か」「教員とは何か」を考える機会とし、「教職」という職業を選択していく決意を高めていってもらいたい。グループワーク等で、受講生の積極的な発言や参加を期待する。	
専門科目	基礎科目	特別支援教育論	○ 障害の特性並びに心身の発達、教育課程並びに支援の方法を学ぶ。具体的には、①インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度及び主な法令の内容、②発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害並びにそれに伴う困難の特性、③発達障害を含む特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の心身の発達、心理的特性並びに学習の過程、④発達障害及び軽度知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する支援の方法、⑤「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけ並びに内容、⑥特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び教育支援計画を作成する意義・方法、⑦特別支援教育コーディネーター、関係機関及び家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性、⑧母国語や貧困の問題等により特別な教育的ニーズのある児童生徒に関する実態把握の方法並びに組織的な対応の必要性について、知識の習得と理解の深化を目指す。さらに、障害の当事者の手記や当事者への調査研究などを通して、障害児の困難と発達支援に関する学びを深める。	
専門科目	基礎科目	教育方法論	○ 学校教育における教育実践のあり方をめぐる議論や実践事例の検討などを通して、教育目標と教材の関係、教育方法と指導技術、教育評価の役割と実践方法、教材・教具の活用方法、学習指導案の作成方法など、教育活動を計画・実践・改善するために必要となる基礎的な知識や技能を習得するとともに、それらを用いた実践分析および授業づくりを行う機会を提供することを目的とする。	
専門科目	基礎科目	ICTを活用した教育の理論と方法	○ 本授業では、一方的に授業を聞く時間だけでなく、受講生が実際にデジタル機器を触りながら、実践的に議論できるような時間をもつ。このため、毎回の授業内容について、基礎的な知識と共に背景・狙い・目的などを提示した上で、簡単なデジタル機器の操作を行った後、授業で行う作業の流れを提示した上で、必要に応じてグループを作り、各自が手と頭を使いながら学習を行う。以上のような、一斉学習・個別学習・協働学習を組み合わせた授業を毎回行うことにより、本授業を受講すること自体が、ICTを活用した教育を体験する機会となることを狙っている。	

専門科目	基礎科目	心身の発達と学習の心理学	○	本科目は、教員免許状を取得するための必修科目であり、教育の基礎的理解に関する科目の一つとして位置づけられている。また、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育の対象の理解に関する科目の一つである。授業では、心理学の研究成果に基づく幼児、児童、生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な知識、理論について概説する。子どもの各発達段階における心理的特性、主体的な学習を支える上で保育・教育者に求められる知見・考え方を理解することを目的として開講される。講義形式を中心とするが、内容に応じてディスカッションや意見の発表の時間を設ける。授業終了時には、授業内容のまとめ、考察の記述を求め、その内容は次回授業内でフィードバックする。	
専門科目	基礎科目	教育課程論	○	学校教育における教育課程に関する議論や実践事例の検討などを通して、教育課程の意義、歴史的展開、構造、編成方法、評価と改善のあり方、カリキュラム・マネジメントの意義など、教育課程の開発、実施、および改善を行うために必要となる基礎的な知識や技能を習得するとともに、今後の教育課程のあり方についての自分なりの考えを持てるようにするための機会を提供することを目的とする。	
専門科目	基礎科目	教育相談の理論と方法	○	教育相談は、子どもたちが抱えるさまざまな悩みや問題に対して、教師や専門家が寄り添いながら成長を支援する教育活動の一環です。教育相談は生徒指導の重要な柱とされ、児童生徒が自己理解と自己決定を深め、健全な成長を促すことを目的としています。授業では、個別の支援のあり方を重視し、学業面だけでなく、心の問題、家族関係、将来の不安など、幅広い分野での相談を扱います。また、児童生徒の自己理解・自己選択を促すことで、単なる問題解決ではなく、児童生徒が自分を理解し、適切な行動を選択できるような支援のあり方を扱います。具体的には、カウンセリングの基本的な態度、校内連携、外部関係機関との連携、発達の支援や不登校やいじめへの支援、進路相談、児童虐待や家庭問題の早期発見と対応などを扱います。	
専門科目	基礎科目	教育社会・制度論	○	本授業ではまず、公教育制度がどのような経緯をたどって成立し、現在のかたちになったのかについて歴史的に追っていく。さらにその背後に存在する公教育制度の理念や基本的な原理について理解した上で、それらを支える法的な仕組みについて学んでいく。次に、公教育制度を支える教育行政の基本構造や課題について学ぶとともに、開かれた学校を実現するための取り組みについて地域や家庭との連携、学校安全の観点から考える。その上で、不登校の問題など公教育制度をめぐる今日的課題を取り上げ、公教育制度の限界と可能性について考える。最後に、諸外国の教育制度のあり方について学び、わが国と比べることを通じて教育制度に対する視野を広げていく。	
専門科目	基礎科目	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法		学校教育における「総合的な学習/探究の時間」および「特別活動」の位置づけや意義、実践に向けて取り組むべき課題（目標や内容、指導方法や指導計画、評価方法など）、取り組みの具体像や議論などを理解したうえで、それをふまえて自分なりのめざす実践のあり方を構想するための、基礎的な知識や技能を身につけることを目的とする。そのために、学習指導要領の内容や関連する議論、具体的な実践事例などに検討を加えたり、自身のめざす実践のあり方について他の受講生と議論を行ったりする機会を設定する予定である。	
専門科目	基礎科目	道徳教育の理論と指導法		道徳教育は、教育基本法並びに学校教育法に定められた教育の基本精神を踏まえ、人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者とともによりよく生きるための基盤となる道徳性を育成することを目的とした教育活動である。この授業では、道徳や倫理についての知見を学び、学校教育全体で実践される道徳教育、また教科として実践される道徳科授業について、授業目標の設定や指導計画、教材研究・開発、学習指導案の作成、模擬授業のデザイン、道徳教育の評価等の諸点において、道徳教育の専門的知見と実践的指導力を身につけることを目的とする。1) 道徳教育の歴史と現行の道徳教育の考え方、特に教科化の理念と考え方を理解する。2) 道徳性発達理論やそれに基づく授業理論について学び、「読む・聞く」道徳の授業から「考え、議論する」道徳の授業への転換を理解し、また道徳の授業をデザイン・実践・評価していく力を身につける。講義の後半では、資料をもとに教材研究や指導案の作成、教授方法、評価方法について、受講生がそれぞれ具体的に取り組み、教育実践現場（初等教育）における道徳の時間の指導のあり方について、体感的に学んでいく。	
専門科目	基礎科目	生徒指導の理論と方法 (進路指導を含む)		現在の学校教育現場では、生徒を取り巻く環境に急激な変化が生じ、さまざまな問題を抱えている。その基本的な原因を追求し、生徒指導の意義、原理、方法についての理解を深め、子どもを大切にし、諸問題に適切に対応できる能力の育成を目指すことを目的とする。とくに、従来の生徒指導のイメージを覆し、個々の子どもの自己実現を図る生徒指導教員のあり方を深く追究する。また、キャリア教育の視点を学習し、その視点からの生徒指導のあり方を構想していく。講義とともに、グループワーク等での受講生の積極的な発言や参加を期待します。	
専門科目	基礎科目	子ども理解の理論と方法		教育や保育では、一人ひとりの子どもの行動や発達の特性について理解し、それに応じた指導や援助を行うことが重要である。この授業では、子ども理解の理論とその方法について学ぶ。具体的には、子どもの心身の発達に関する知見や、観察などの子どもを理解するための方法についての知識を身につける。また、発達や学びの過程において生じる子どものつまづきへの対応や理解の方法、保護者や家庭との関わり方などについても理解を深め、幼児理解の理論と方法について体系的に学ぶことを目指す。授業は講義形式を中心とするが、内容に応じてディスカッションや意見発表の時間を設ける。	
専門科目	基礎科目	保育原理		保育所の意義と社会的役割を理解するとともに、乳幼児期の保育の基本について学ぶ。保育の特性、保育の目標、保育の内容と方法、子どもの理解と援助、保育の質の向上に向けた取り組み、実践における計画の作成や保育の環境構成、保護者との連携・支援、保育者の役割等、子どもの順調な育ちを促す保育の在り方について理解を深める。	
専門科目	基礎科目	子ども家庭福祉		児童・家庭福祉の実践現場では、保育等のケアワークとソーシャルワークが一体となって行われている場合がある。本講義では、ケアワークの現場においても、ソーシャルワークの視点で子どもやその家庭を理解する力を身につけるため、児童福祉の法制度と各分野に関わるソーシャルワーク実践のあり方について学んでいく。	

専門科目	基礎科目	社会福祉	<p>本科目「社会福祉」は、福祉の分野論(高齢・障害・子ども・地域)を理解するうえで共通基盤である「福祉とは何か」という点について思想やその原理を考える講義です。特に、日々目まぐるしく変化し、かつ複雑化・多様化した現代社会における福祉の課題に対して、試行錯誤のなか展開される福祉政策の在り方を理解することを目的とします。</p> <p>具体的には、①福祉の人間観の起点として「人間の尊厳性」を軸に置き、社会福祉の形成過程(歴史)や思想的背景(哲学)を理解すること。②代表的な社会福祉理論の基本的な考え方を理解すること。③「社会政策」・「社会保障」・「福祉政策」等の専門用語に親しむとともに、社会福祉の論点など社会福祉学を学ぶ上での基盤を形成すること。</p> <p>以上の3点を軸に講義を展開します。必要に応じて、映像資料などの視聴を通じて、コメントペーパーの提出やグループディスカッションによる意見交換も行います。</p>	
専門科目	基礎科目	子ども家庭支援論	<p>子ども家庭支援の理論、方法、技術、具体的展開過程、子ども家庭支援事例について学ぶことにより、子ども家庭支援に関する専門的知識を習得することを目的とする。</p> <p>子ども家庭支援について事例を通して理解を深めるとともに、子ども家庭支援の理論、方法、技術、具体的展開過程について学修する。</p>	
専門科目	基礎科目	社会的養護 I	<p>社会的養護システムと今日的な課題について理解することを授業テーマとし、社会的養護の仕組みや考え、歴史的経緯を理解した上で、今日的な課題特に被虐待児への理解を深めて、そこで活躍する保育士、その他専門職の役割、あるべき姿について考えていきたい。</p>	
専門科目	基礎科目	保育者論	<p>保育者の役割と倫理、制度的な位置付けについて学ぶ。また、社会から求められている保育ニーズを知り、保育者としての資質や専門性、連携・協働することの重要性について理解し、保育者として望ましいキャリア形成について学び、保育者になるための自己課題を明確にする。</p>	
専門科目	小学校科目	初等国語科(書写を含む)	<p>○ 国語科の教科構造を理解するとともに、学習指導要領における国語科の目標及び内容並びに全体構造を理解する。また、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域に関連する学習指導内容を踏まえ、教材研究上の留意点を理解する。 (オムニバス/全15回) (15 三好真史/14回) 第1回オリエンテーション、授業の進め方、国語科教育の目的について、第2回グループ編成、パブリックコミュニケーションゲーム、国語科教育の動向について、第3回国語学力の基礎・基本、「言葉による見方・考え方」について、第4回音声言語について、第5回文学作品(物語・詩・小説)について、第6回説明的文章について、第7回作文について、第8回言葉の特徴や使い方・情報の扱い方について、第9回読書指導・読み聞かせ、読書へのアニメーションについて、第11回N I Eを生かした国語の授業について、第12回ディベートの授業について、第13回スピーチの授業について、第14回P I S A「読解力」について、第15回レポートの相互評価、授業のふりかえり (② 下野健児/1回) 第10回毛筆、硬筆等の書写について</p>	オムニバス
専門科目	小学校科目	初等社会科	<p>○ 小学校学習指導要領社会編が示す小学校社会科の教育内容について、授業で子どもが学ぶ姿をイメージし、子どもが学ぶ意味を理解する。また、それらの内容を小学校の教育内容とすることの社会的意義について考察する。さらに、基盤となる社会科学の理論と方法をふまえて、社会的見方・考え方、地理的見方・考え方、歴史的見方・考え方を働かせて、それらの内容について考察し、社会に見られる課題の解決に向けたパフォーマンス課題に取り組み、その探究の成果を発表し、議論する。</p>	
専門科目	小学校科目	初等算数科	<p>○ 本授業では、「身の回りの事象から問題を見出し、その問題を数学的に処理し解決したうえで、さらに日常の事象に返して現実的な課題解決を図る」という数学的サイクルを確立するとともに、筋道を立てて論理的に解決する算数のよさを感得することができる算数科教育を理解することをねらいとする。それを踏まえた上で、算数科教育に必要な基礎的な知識を身に付け、児童の思考方法や特徴を知り、教科書教材を読み深めて教材の場面設定や数値の意味と数学的な内容を関連させて理解するなど、実践化に結びつく理論を備えた資質の育成を目指す。</p>	
専門科目	小学校科目	初等理科	<p>○ 授業は実験・実習を中心に進める。毎回、小学校理科で基本となる、あるいは重要な実験・観察について、受講生が実際に実施し、効果的で安全な実施方法と必要な技能についての理解を図る。あわせて、小学校理科を指導するうえで必要となる理科の内容に関する理解を深める。毎回、授業後にミニレポートを作成して提出する。</p>	
専門科目	小学校科目	初等生活科	<p>授業は、生活科で児童が体験する活動を、受講生が実際に体験してみる活動を中心に進める。毎回の授業の最後に活動を通して得られた気づきを簡潔に報告し合い、他の受講生の気づきを参考にして次の授業までに追加の活動を各自で実施し、得られた気づきを次の授業の冒頭で簡潔に報告し合う。第6回と第9回では、小学校教員の視点に立って、指導上の工夫点について検討する。気づいたことを表現する活動を通して気づきが深まることも、受講生自身が取り組んでみることで理解を深める。</p>	
専門科目	小学校科目	初等音楽科	<p>初等音楽科の指導ができるように、音楽の基礎的な知識(楽典、楽譜の見方・読み方、楽器の種類奏法)と技能(ピアノ弾き歌い、歌唱、器楽、音楽づくり等)を身に付けることを目指す。 上記の学習を通して、各自の音楽に対する理解力、表現力を高める。</p>	
専門科目	小学校科目	初等図画工作科	<p>小学校図画工作科の目標や内容について、具体的な題材を通して理解し、授業実践に向けての基礎的な能力を身につける。 学習指導要領図画工作科の目標にある「つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする」ということを大切に。どのようすれば、目標を実現する授業は可能なのか、実際の小学校の題材にふれ、制作する中で、指導内容や指導方法についての理解を深める。</p>	

専門科目	小学校科目	初等家庭科		現代の小学生の家庭生活をめぐる諸課題を理解した上で、家族と家庭生活、衣食住の生活、消費生活と環境の各内容に関する基礎的技術を身に付け、授業実践に活用できる。 小学校家庭科を担当するために必要となる基礎的知識と技能を習得する。小学生を取り巻く家庭生活の実態や問題点を知り、小学生と自分自身の生活を捉え直し、生活の改善を図ることができるようになる。
専門科目	小学校科目	初等体育科		近年においては、運動習慣の低下が社会問題になっており、運動の果たす役割が重要視されている。運動好きな子どもを育てるためには、授業の中で運動に興味を持たせ、できる喜びを感じさせる必要があり、教師の資質が問われることになる。本講義では、児童の発育や発達を理解しながら、安全に楽しく運動に親しませることができるよう、様々な運動を体験し、理解することを目的とする。
専門科目	小学校科目	初等英語科		本授業では、小学校英語教育を志す学生を対象に、『Let's Have Fun Teaching English』を用い、英語4技能の向上を目指す。特に「英語でのコミュニケーション力」と「指導スキルの基盤」となる英語力を強化する。 話す・聞く：ペアワークやディスカッションを通じて会話力を向上し、スマートトークやプレゼンを実践。 読む：読解活動を通じて語彙力を高め、教育現場で役立つ知識を習得。 聞く：会話や授業音声を活用し、実践的なリスニング力を強化。 書く：作文や発表資料作成を通じて、論理的な英語表現を学ぶ。
専門科目	小学校科目	初等国語科指導法		国語科の目標論、評価論、授業構成論、授業展開や授業評価について学ぶ。指導案の作成、検討及び模擬授業を通して、国語科の授業づくりや学習指導についての実践的力量的形成を目指す。本授業は、グループ単位（または個人単位）による教材開発、学習指導案の作成、模擬授業実践という学生主体の演習形式で行う。
専門科目	小学校科目	初等社会科指導法		時代が求める小学校社会科の教育課程・単元・授業設計および学習と評価のデザインについて、次の3つの「責任ある主体性（エージェンシー）」をキーワードとして考える。①思考における責任ある主体性、②学習評価における責任ある主体性、③市民的熟議への参加における責任ある主体性。これらをふまえて、授業で指定した小学校社会科の単元リストの中から一つの単元を選び、単元案と本時案（学習指導案）・教材開発・対話イメージの作成と模擬授業を行い、それらについて相互評価・自己評価を行い、プランを改善する。
専門科目	小学校科目	初等算数科指導法		本授業では、小学校学習指導要領に示された算数科の目標を踏まえ、身の回りの事象から問題を見出し、その問題を数学的に処理し解決したうえで、さらに日常の事象に返して現実的な課題解決を図るといった数学的サイクルを確立するとともに、筋道を立てて論理的に解決する算数のよさを感得することができる算数科指導法を理解することをねらいとする。 教科用図書を系統的に分析し、「課題把握、見通し、探究、振り返り」の学習過程において、常態的に協働的な学びを取り入れた授業のあり方を追究することをねらいとする。学習指導案作成を複数パターンで行い、作成意図によって指導方法や身に付ける力も異なることを体験し、教師の算数科に対する教材観や指導観の重要性を理解した実践者となる資質を育む。さらに、算数科の授業で多様な特性を有する児童を生かすための指導の工夫を探る。
専門科目	小学校科目	初等理科指導法		授業は講義中心に進める。毎回、講義内容のレジュメを配布するので、それを参照しながら理解を深めてもらう。また、実践記録も配布してそれに関するコメントを発表してもらうので、実践記録をじっくり読むとともに、他の受講生のコメントも参考にして、実際の授業の構想力を鍛えてもらう。授業中には演習実験をできるだけ行うが、各受講生が取り組む実験・実習も3種類ほど実施する。情報機器も活用した自分なりのノート作成に取り組んでもらう。
専門科目	小学校科目	初等生活科指導法		授業の冒頭では毎回、受講生が前日の具体的な活動（生活）を通して気付いたことの中で特に面白いと思えるものを報告し合う。このことを重ねる中で、自らの気付きの質の変化を自覚しつつ、生活科という教科の意義や役割、カリキュラムの特徴について理解を深める。後半では、実際の授業の参観を通して、低学年の子どもも理解や評価の視点について、具体的に検討し合う。
専門科目	小学校科目	初等音楽科指導法	○	音楽科の目的と教育内容・方法については歴史の変遷や音楽教育の原理を含めて学び、基礎的理解を深める。 最終的には音楽科の授業を立案・実施・振り返りを通して実践力を身に付ける。具体的には小学校音楽科の教育課程の基準を示した「学習指導要領」の内容について検討し、音楽活動の各領域（表現と鑑賞）間のバランスを考えながら、各学年の発達段階に即した教材を選び、授業構成を検討、授業実践を行う。上記授業は講義とグループ学習による討議も行う。 授業初めには、授業実践力の基礎として各自のリズム打ち、ハンドサイン（歌唱指導）等の基礎技能練習を行う。
専門科目	小学校科目	初等図画工作科指導法	○	学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解し、学習指導案を作成し、模擬授業をする中で、具体的な授業場面を想定した授業設計の力を身に付ける。第1～2回において図画工作科の目標や内容や授業設計の在り方について学び、第3～8回において、題材開発、教材研究、演習等を通し図画工作科の内容・領域の理解を深める。第9～12回において、グループで共通領域の題材を選定し、演習を通しながら各自学習指導案を作成する。第13～15回において、各グループの代表1名が、書き上げた学習指導案をもとに模擬授業を行い、全員で事後研究会をする中で、授業設計の力を身に付けることを目指す。
専門科目	小学校科目	初等家庭科指導法	○	学習指導上の諸問題を踏まえ、家族と家庭生活・衣食住の生活・消費生活と環境の内容の指導計画や学習指導案を作成するとともに、授業実践に基づき、基礎的な技能の習得のさえ方や、今日的課題、教材研究や実習題材の扱い方や指導法について指導力を身に付けられるようにする。授業は次のような内容で構成する。教科の歴史的背景・家庭科の意義と役割、学習指導要領の目標と内容、教科書の題材構成、基本的な授業づくり、指導の実際、実習や演習を通して基礎的・基本的な知識や技能の習得、指導案の作成、模擬授業、具体的評価のあり方などを講義と演習の形態で行う。
専門科目	小学校科目	初等体育科指導法	○	初等体育科教育における基礎理論、授業づくり、発育発達、指導技術、安全管理について取り上げ、初等体育科教育について体系的に学習する。 初等体育科にかかわる教師として、体育の授業をどのように授業設定すべきかを考える。 初等体育科教育の基礎知識を身に付ける。事故の予防と対策について考え、安全に配慮した体育の授業づくりができるようになる。

専門科目	小学校科目	初等英語科指導法	○	1. 小学校用の英語指導力を身に付けるための方法・技術の習得と同時に、同じEFL圏の国々の初等英語教育について考察しながら、日本の小学校英語教育にふさわしい教育方法を検討する。 2. ウォームアップ活動（毎回） いろいろなコミュニケーションの場面に対応できるようになるために、毎回必ず違うパートナーとペアで英語を使ってスマールトークをおこなう。
専門科目	幼保科目	保育内容総論	○	幼稚園教育要領、保育所保育指針に示された「保育の内容」の全体像を概説したうえで、保育内容を実践化する中で、保育の「ねらい」を達成するための方法について学ぶ。 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目について、具体的な子どもの発達の様子を例示し、カリキュラム・マネジメントを適切に行うために必要な保育内容や子ども理解のための視点を学ぶ。
専門科目	幼保科目	子どもと健康	○	領域「環境」のねらいを踏まえて、その全体像を理解することを本講義ねらいとする。幼児期の心身の発達、生活習慣の確立の大切さ（生活リズム・食育・睡眠・トイレトレーニングなど）、心身の発達と遊びの関わり、安全教育など健康な人生を歩む上での基盤づくりとなる乳幼児期における健康的な生活づくりを学ぶ。
専門科目	幼保科目	子どもと人間関係	○	現代の幼児の人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児教育で保障すべき教育内容に関する知識を身に付ける。特に、領域「人間関係」の指導の基盤となる基礎理論として関係発達論的視点について学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する。
専門科目	幼保科目	子どもと環境	○	領域「環境」のねらいを踏まえて、その全体像を理解することを主たるねらいとする。子どもにとっての環境、心身の発達と環境の関わり、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連などを踏まえて多角的に環境について考え、理解することが求められる。
専門科目	幼保科目	子どもと言葉	○	言葉の機能および乳幼児期の言葉の発達過程について、理解します。そのうえで、幼児教育における子どもの言葉を育てる指導について、「幼稚園教育要領」領域「言葉」のねらい及び内容から学びます。そして、子どもの言葉を育てる保育の実践に向けた幼児理解と指導の内容および方法について、具体的な事例や教材を通して考え合うディスカッションでの検討を通し、保育を考え実践する力の習得を目指します。
専門科目	幼保科目	子どもと表現（造形）	○	<幼稚園教育要項>および<保育所保育指針>に設定される領域「表現」における「造形」について理解を深め、その視点から子ども達の育ちと保育のあり方を考える。また子ども達の感性や創造性をささえ育てるために、自ら表現者として物づくりや体験を実践し、どのような援助や展開をすべきなのか学びを深める。
専門科目	幼保科目	子どもと表現（音楽）	○	領域「表現」のねらい及び内容について理解するとともに、幼児期における様々な音楽表現について学習し、理解を深める。 幼児期の発育・発達の特徴を踏まえ、音楽表現の指導方法について探求し、実践力を身に付ける。
専門科目	幼保科目	健康領域指導法Ⅰ	○	領域「健康」のねらいと内容および内容の取扱いを踏まえ、具体的保育内容の理解と実践力の向上を本授業のねらいとする。幼児が健やかに成長し、健全な生活習慣を身につけるために、その行動が心身諸側面の発達の特質にどのように影響するかを踏まえ、健全な成長発達にふさわしい生活と遊びを考える。特に遊びに着目して、遊びが幼児の主体的な活動となるために、保育における遊びの具体とその充実方法を講義と実践を通して学ぶ。
専門科目	幼保科目	健康領域指導法Ⅱ	○	領域「健康」のねらいと内容および内容の取扱いを踏まえ、具体的保育内容の理解と実践力の育成を本授業のねらいとする。幼児が健やかに成長し、健全な生活習慣を身につけるために、その行動が心身諸側面の発達の特質にどのように影響するかを踏まえ、健全な成長発達にふさわしい生活と遊びを考える。特に遊びに着目して、遊びが幼児の主体的な活動となるために、保育における遊びの具体とその充実方法を講義と実践を通して学ぶ。
専門科目	幼保科目	人間関係領域指導法Ⅰ	○	幼児期前期における人間関係の発達の特徴と課題、教師に求められる援助の視点と具体的な方法について論じる。また、教材研究と指導計画の作成を行い、模擬保育を行う。
専門科目	幼保科目	人間関係領域指導法Ⅱ	○	幼児期後期における人間関係の発達の特徴と課題、教師に求められる援助の視点と具体的な方法について論じる。また、教材研究と指導計画の作成を行い、模擬保育を行う。
専門科目	幼保科目	環境領域指導法Ⅰ	○	領域「環境」のねらいと内容および内容の取扱いを踏まえ、具体的保育内容の理解と実践力の向上を本授業のねらいとする。幼児が環境と関わって生きていることを理解し、その関わりと心身諸側面の発達との関係を学ぶ。さらに、幼児の成長・発達にふさわしい環境を具体的に考える。また、幼児が生活や遊びを行う中で、主体性の基盤をつくるために、保育における環境との豊かなかわりを育む環境構成を、講義とともに、グループワークなどを通して対話的に学ぶ。

専門科目	幼保科目	環境領域指導法Ⅱ	○	領域「環境」のねらいと内容および内容の取扱いを踏まえ、具体的保育内容の理解と実践力の育成を本授業のねらいとする。幼児が環境と関わって生きていることを理解し、その関わりと心身諸側面の発達との関係を学ぶ。さらに、幼児の成長・発達にふさわしい環境を具体的に考える。また、幼児が生活や遊びを行う中で、主体性の基盤をつくるために、保育における環境との豊かなかかわりを育む環境のあり方を、講義とともに、グループワークなどを通して対話的に学ぶ。	
専門科目	幼保科目	言葉領域指導法Ⅰ	○	この授業では、言葉をコミュニケーション及び表現ツールのひとつとして位置づけ、言葉の発達段階に応じた指導方法を修得することを目的とする。たとえば乳児の泣き（叫喚音）や前言後の発声（非叫喚音）には、自らの欲求や要求を養育者に伝達しようとする意図や何らかの理由がある。一方養育者は泣きに対して戸惑い、抱いたりあやしたりしながら乳児を理解しようとする。このような言語的相互のやり取りの連続によって愛着が芽生え、三項関係が成立する。このような言語獲得の発達に関する基礎知識と、保育内容領域「言葉」のねらい及び内容を理解し、それらをふまえた指導計画の作成、実践、評価の方法を学ぶために、この授業では協同学習の理念と手法に基づいた話し合い活動（LTD：Learning Through Discussion）と、情報機器を活用した授業設計を通して、具体的な「言葉」の指導方略を探究する。	
専門科目	幼保科目	言葉領域指導法Ⅱ	○	この授業では、「言葉領域指導Ⅰ」修得内容を基に、保育計画の重要性及び情報機器及び教材の活用を取り入れた「言葉の指導」に関する保育計画（指導案）を作成・模擬授業（クラス内発表）を実施する。発表については、PDCAサイクルを通した相互評価を行うことにより、自らの保育指導計画を改善、グループメンバーの協同によるよりよい指導計画づくりと実践の探究を目指す。この授業では協同学習の理念と手法に基づいた話し合い活動（LTD：Learning Through Discussion）と、情報機器を活用した授業設計を通して、具体的な「言葉」の指導方略を探究する。このような手法・グループ活動にも興味・関心を持ち、積極的に授業に参加することを期待している。	
専門科目	幼保科目	表現領域（造形）指導法	○	領域「表現」について理解し、子どもの「造形表現」の年齢別の発達や子どもの発達段階における基礎的な知識を理解し、造形表現の特性や子どもの感性と創造性を養う援助の在り方を学ぶとともに、造形表現の様々な技法的知識を修得する。また、保育者として適切な援助、指導をするために、保育・教育実習に使える楽しい造形教育の方法論、手法や技法についても学ぶ。	
専門科目	幼保科目	表現領域（音楽）指導法	○	・幼稚園教育における領域「表現」に関する活動を総合的な視野からとらえ、小学校教育との接続、障害のある児童へも配慮した指導内容と方法について検討する。 ・また幼稚園教育の指導に必要な音楽の基礎的な知識と技能を身に付ける。	
専門科目	幼保科目	子どもの保健		本科目は、保育士養成課程の指定規則の保育の対象の理解に関する科目として定められ、児童福祉学科必修科目である。子どもの健康増進をめざした保健活動について学ぶ。授業は講義を中心とするが、グループワーク、課題発表を行い、履修者が相互に学びを深める機会を設定する。毎時間リフレクションを記載し授業の要点を振り返り、次回授業時に疑問や意見等を他学生と共有する。	
専門科目	幼保科目	子どもの健康と安全		本科目は、児童福祉法施行規則に定められた保育士養成に必要な保育の内容・方法に関する科目であり、子どもが健康な生活を過ごせるための健康・安全に関する支援策を理解した上で、必要な知識や技術等を習得する。また、子どもの健康状態の把握や緊急時対応等、応急処置や一時救命処置を演習形式で行うことで実践力を身に付ける。授業は必要に応じて、グループでの演習形式で行う。	
専門科目	幼保科目	子どもの食と栄養Ⅰ		子どもにとって食べることは単に栄養補給にとどまらず、情緒面などの成長・発達にも影響を及ぼす重要なものである。本講義では、まず食生活に関する基本的な事項について学び、バランスの良い豊かな食生活を送るための基礎について理解する。さらに子どもや子どもを取り巻く大人が食の重要性を理解し、食に興味を持ち考えることができる力をつけていくための食育の進め方などについても、その基本を学ぶとともに実践力を身に付けていけるように取り組んでいく。	
専門科目	幼保科目	子どもの食と栄養Ⅱ		子どもにとって食べることは単に栄養補給にとどまらず、情緒面などの成長・発達にも影響を及ぼす重要なものである。本講義では、子どもの発達段階に応じた食のあり方について学び、子どもの食が大人の縮小版ではないことを理解し、その内容や与え方などについて正しい知識をもって子どもに対応することができる力を養う。さらに子どもの食生活の上の問題点や特別な配慮が必要な子どもへの対応について理解し対応することができるように学んでいく。	
専門科目	幼保科目	乳児保育Ⅰ		ヒトは、生後数年間で心身ともにめざましい発達を遂げる。この時期における周囲の環境や他者の存在は、子どもが発達する上で、また、安心感を持って毎日を過ごす上で非常に重要である。この授業では、3歳未満児を対象とする乳児保育について、その意義や役割、歴史の変遷を学ぶ。また、3歳未満児の心身の発達過程や、保護者や関係機関との連携に関する知識を身につけ、それらを踏まえた保育内容についても理解を深める。授業は講義形式を中心とするが、内容に応じてディスカッションや意見発表の時間を設ける。	
専門科目	幼保科目	乳児保育Ⅱ		ヒトは、生後数年間で心身ともにめざましい発達を遂げる。この時期における周囲の環境や他者の存在は、子どもが発達する上で、また、安心感を持って毎日を過ごす上で非常に重要である。この授業では、3歳未満児の生活や遊び、保育の方法および環境や、3歳未満児の発達や特性を踏まえた関わり方の基本的な考え方について学ぶ。さらに、乳児保育において留意すべき事項や、指導計画の必要性、作成方法についても理解を深めることを目的とする。	
専門科目	幼保科目	社会的養護Ⅱ		社会的養護に関する演習を通して、社会的養護の各領域の実践について理解することを授業テーマとし、児童福祉施設等における実習を念頭に置きながら、社会的養護の現状について演習を通して学び、他職種との連携について考えていきたい。	

専門科目	幼保科目	子ども家庭支援の心理学	<p>本科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育の対象の理解に関する科目の一つである。授業内容は大まかに三部構成となっており、まずは、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識習得をめざし、初期経験の重要性、発達課題について概説する。第二部では、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解すること、子どもと子どもが育つ場としての家庭を包括的に捉える視点を得ることを目指して講義を行う。第三部では、子育て家庭を取り巻く地域・社会の現状と課題を把握し、より良い成長と発達のための支援について受講者自身が考えていく。講義形式を中心とするが、内容に応じてディスカッションや意見の発表の時間を設ける。授業終了時には、授業内容のまとめ、考察の記述を求め、その内容は次回授業内でフィードバックする。</p>	
------	------	-------------	--	--

専門科目	幼保科目		保育の計画と評価	実際の保育は、保育の全体計画、保育計画に基づいて展開されている。それらの関係を学び、特に、保育計画を立てる際の基盤となる子どもの姿や活動の捉え方、環境構成や保育者の援助の視点などに注目しながら、子どもの主体的な暮らしが展開される保育の計画とその評価について具体的に学ぶ。	
専門科目	幼保科目		障害児保育 I	本科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育の内容・方法に関する科目の一つである。保育所・幼稚園・認定こども園および児童福祉施設などで保育者が対峙すると考えられる、障害があるなど特別な配慮が必要な子どもへの理解と支援のありかたについて学ぶ。 具体的には、障害がある子どもの保育・教育に関する理念や制度を理解し、障害の種類や病理、心理的特徴、発達援助の方法など基礎知識を講義形式で学ぶ。一方、発達検査や支援機器の体験、グループでの事例検討、映像視聴など、実際をより良く知り、受講生自身がじっくり問題に向き合えるような学習活動を想定している。 保育の実際（援助や配慮のありかた、計画と連携等）を理解し、特別な配慮の必要な子どもたちにどのように対応していくべきかを思考する力、子どもたちが互いに育ちあう保育を実現する力、保護者や専門機関と連携してより良い支援ができる力を養うことを目的として開講される。 障害児保育IIと連続した内容になるため、先に本科目を履修すること。	
専門科目	幼保科目		障害児保育 II	本科目は、保育士資格を取得するための必修科目であり、保育の内容・方法に関する科目の一つである。保育所・幼稚園・認定こども園および児童福祉施設などで保育者が対峙すると考えられる、障害があるなど特別な配慮が必要な子どもへの理解と支援のありかたについて学ぶ。 具体的には、障害がある子どもの保育・教育に関する理念や制度を理解し、障害の種類や病理、心理的特徴、発達援助の方法など基礎知識を講義形式で学ぶ。一方、発達検査や支援機器の体験、グループでの事例検討、映像視聴など、実際をより良く知り、受講生自身がじっくり問題に向き合えるような学習活動を想定している。 保育の実際（援助や配慮のありかた、計画と連携等）を理解し、特別な配慮の必要な子どもたちにどのように対応していくべきかを思考する力、子どもたちが互いに育ちあう保育を実現する力、保護者や専門機関と連携してより良い支援ができる力を養うことを目的として開講される。 障害児保育 I と連続した内容になるため、先に障害児保育 I を履修すること。	
専門科目	幼保科目		子育て支援	子どもに対する生活支援や遊びへの支援（保育技術）のみならず、保護者の立場に寄り添った子育て支援（保育相談支援）をも視野に入れた幅広い役割が、保育者に求められていることを理解する。そして、アクティビティや具体的事例等を通して、保育の特性をいかした子育て支援のあり方や方法を修得する。また社会福祉的視点から必要な対人援助サービスの基本的な原理と視座を考察し、子育て支援における価値・知識・技術の三要素の関係についてグループワーク等を通して修得する。	
専門科目	特別支援科目		知的障害児の心理	○ 本科目は、特別支援教諭免許状を取得するための必修科目であり、知的障害者に関する教育の領域に位置付けられる科目の一つである。知的障害のある幼児、児童又は生徒が抱える生活や学習場面における「問題」の背景を正しく認識し、教育的対応を組み立てていくための基礎知識を学ぶ。 具体的には、知的障害の定義やアセスメント、発生要因、感覚・認知・学習・運動・言語といった心理的特性と学習支援である。知的機能、適応機能のアセスメントについては、心理・知能検査を体験し、方法について実践的に理解していく。また、グループでの事例検討、映像視聴など、実際をより良く知り、受講生自身がじっくり問題に向き合えるような学習活動を想定している。子どもの行動背景への多角的な視点を得ること、指導や配慮を検討するにあたり、保護者や各専門機関との連携が必要であることへの理解、適切な教育を考える力を養うことを目的として開講される。	
専門科目	特別支援科目		知的障害児の生理・病理	ヒトの精神発達の道筋を神経学的に学び、知的障がいの原因疾患と病態の生理・病理を主に医学的見地からとらえる。また、出生前診断など現代の医療を取り巻く倫理的側面や、知的障害児/者の医療と教育、福祉の連携など、幅広く障害について検討する。これに基づき、生活の主体者としての支援のあり方を考える。	
専門科目	特別支援科目		肢体不自由児の心理・生理・病理	本講義では、肢体不自由児の原因疾患（脳性麻痺、二分脊椎など）についての医学的な基礎知識を享受し、さらに生活場面でその障害が引き起こしている問題について、相互ディスカッションを通して考えることを目的としている。座学を行なった後、グループディスカッションと発表を通して、子供達の抱える生活場面での考え方と、肢体不自由児教育における役割を相互に確認する。	
専門科目	特別支援科目		病弱児の心理・生理・病理	代表的な病気や障害について、定義、概念、原因、病態生理、症状、治療法、援助方法について教授する。授業時間の都合上、学習する疾患は極めて代表的なものに限られるが、病弱児・者の心理・生理・病理とその家族への影響について理解し、生活上の諸問題を解決するための礎となる基本的能力の習得を目指す。 (オムニバス/全15回) (54 合田千景/9回) 第1回病気・障害のある児・者とその家族とは、第2回外傷のある児・者の心理・生理・病理と生活、第6回慢性疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第7回急性疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第8回循環器疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第9回悪性新生物・血液疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第10回内分泌疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第11回運動器疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第13回消化器疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第15回第1回～第14回の講義の総括・振り返りおよび確認試験 (67 西田千夏/6回) 第3回神経疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第4回重症心身障害のある児・者の心理・生理・病理と生活、第5回発達障害のある児・者の心理・生理・病理と生活、第12回アレルギー疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活、第14回腎疾患のある児・者の心理・生理・病理と生活	オムニバス

専門科目	特別支援科目	特別支援教育指導法	○	これまで蓄積されてきた主な指導方法について、通常の学級の児童生徒を想定しながら学びます。通級による指導を活用している児童生徒も多いので、前半は自立活動の視点を中心に進めます。後半は現場で取り入れられることが多い指導法や児童生徒を捉えるための方法について扱います。	
専門科目	特別支援科目	知的障害児教育	○	前半は、教育課程を中心に学びます。知的障害教育の特徴である教科等を合わせた指導を中心に、概要やポイント・留意点、授業づくり、指導の実践について学びます。後半は、実際に身近な素材を使って教材・教具づくりをすることを通して、知的障害教育の特徴を身につけて実技を通して学んでいきます。	
専門科目	特別支援科目	肢体不自由児教育		肢体不自由児教育の歴史、障害の発生原因や状態に関する知識、特別支援教育において肢体不自由児に活用できる指導技術、教育の過程を通じての肢体不自由児の心理など、肢体不自由児教育に必要な知識と技術の両面を学習する。なお、授業時間中は毎回必ず質疑応答の時間を設けることで、学生の能動的な学習意欲を高めることに努める。	
専門科目	特別支援科目	病弱児教育		病・虚弱児の教育について、「病気の子どもへの理解と指導」をテーマに、病弱・身体虚弱児教育の現状と課題を知り、こうした子ども達への教育の意義について学ぶ。また、学習指導要領を踏まえつつ、病院入院中の子どもに対する特別支援学校や小中学校の院内学級、さらには地元の小中学校にある病・虚弱児学級(特別支援学級)など、それぞれのあり方と違いについて学び、病・虚弱児への望ましい支援のあり方について考える。具体的には、地域支援や関係機関との連携を通して、病気の子どもが地域で生きていくための手立てを考察する。	
専門科目	特別支援科目	視覚障害総論		視覚障がいの生理、病理及び心理について解説し、理解が深まるようにシミュレーションも取り入れた授業を行う。視覚障がい教育の指導内容や方法では、視覚支援学校での指導経験で培った知見を取り入れた指導を行う。	
専門科目	特別支援科目	聴覚障害総論		聾学校(特別支援学校・聴覚)・難聴学級・通級教室・制度外、など、聴覚障害児・生徒の実態は非常に幅が広い。また聴覚は、狭義の聴力だけを指すものではなく、コミュニケーション・発達・言語、また周囲の関係性についてなど、その人の生き方の根本に関わるものである。本授業では、現時点でできるだけ正確で幅広い知識・情報とともに、教員としての視野や地域での連携についての態度や行動力を培うことを目指す。各授業の導入には、日常で使う手話や聴覚障害に関するトピックスをとりあげる。	
専門科目	特別支援科目	重複LD等教育総論	○	重複障害に対する教育について理解を深める。具体的には、重複障害の教育課程や指導法について概説するとともに、個別の指導計画の作成と活用のあり方について学ぶ。また、一生涯の支援という観点から、学校教育後の支援や、地域生活支援についても学ぶ。	
専門科目	実習科目	観察実習	○	事前学習において、実習の目的・目標・現場に出る心構え、協力学校園の教育方針や教育計画について学んだ後、実際に小学校・幼稚園に向かう。小学校・幼稚園では、教育・保育に参加しながら、教育・保育の流れ、学習環境づくりや環境構成を理解するとともに、教師の指導・支援・援助・保育の様子や多様な子どものありのままの姿を捉え、教育実践力の基本的な態度や能力を養う。また、記録を通して子ども理解の仕方を深めるとともに、観察した教師の指導・支援・援助・保育の意図を考え、子どもの成長を支える教師の役割を体験的に学ぶことを目的としている。実習終了後は、大学の事後学習にて実習体験の省察を行う。なお、本科目は、全実習の基礎段階として実施される学科必修科目である。また、本授業科目の修得は、「教職体験活動Ⅰ」「教職体験活動Ⅱ」「教職体験活動Ⅲ」「保育実習Ⅰ(施設)」「保育実習Ⅰ(保育所)」「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」「教育実習(幼小)」を履修するための条件となっている。	共同
専門科目	実習科目	教職体験活動Ⅰ	○	小学校教育コースの科目として、2年次後期に実施する。本学の近隣に位置する複数の協力校(小学校)を実習校として、特定の曜日(基本的に火曜日を予定)に朝から出向き、登校から5校時までの間、授業や学校・学級経営などの学校実務の補助・支援活動を行う。本実習の際だった特徴は、小学校の特定曜日の教育活動や児童の学びの日常性を体験することにより、学習指導と生活指導を含めた教育実践の実際を包括的に体験し、それらの深い理解につなげることにある。実習校での活動後、大学に戻り、体験活動の振り返りと討議の機会を設け、翌週の活動につなげていく。これらの体験活動と省察を通して、受講生の実践的指導力の基本の育成を図る。	共同
専門科目	実習科目	教職体験活動Ⅱ	○	小学校教育コースの科目として、3年次後期に実施する。実習校は、本学の近隣に位置する小学校、もしくは4年次に実施予定の教育実習校とする。「観察実習」や「教職体験活動Ⅰ」の実現場での経験と学内で学んだ教職に関する専門的知識と技術を基盤に、授業や学校・学級経営と学校実務の補助・支援活動を継続しながら、実践的指導力の研鑽につとめる。また活動記録の作成と省察を通して、多様な子どもを観察する力を身につけ、学校・学級経営の課題について理解を含め、さらには各履修生の児童観や指導観の形成と各自のめざす教員像の確立につなげる。	
専門科目	実習科目	教職体験活動Ⅲ	○	小学校教育コースの科目として、4年次後期に実施する。実習校は、本学の近隣に位置する小学校をはじめ、4年次に実施の教育実習校や、履修生の卒業後の進路等を見据えた上で調整し決定する。本実習科目は、それまでの学内での専門的知識と技術に関する学びと学外実習の経験を踏まえ、学校教育現場の実際をさらに深く理解するとともに、自身の教師としての資質能力の強みと消極面を認識し、自らの学びの方向性と課題を明確にすることを目的とする。	

専門科目	実習科目	教育実習事前事後指導	○	本科目は、小学校教諭免許状及び幼稚園教諭免許状取得のための必修科目であり、「教育実習（幼小）」の事前指導および事後指導を目的として開講される。実習に参加するにあたって、これまで修得してきた教育・保育の専門的な知識や技術のみならず、社会性や対人関係能力等も含め、自己課題を明確化し、実習に臨むという心構えや、教師をめざす者としての課題意識を高めることを求める。また、それまでの実習体験を基に、教育実習での体験を深化させる方法を模索する。具体的な内容としては、実習の意義と目的、実習施設の理解、教師の職務内容、学習指導案・指導計画の立案、実施、実習日誌の意義と記入方法等を再確認する。実習終了後は、各自の実習での学びを他者と交流することにより、客観的な視点で自己評価をおこない、今後に向けた課題を明確化する機会を設定する。	共同
専門科目	実習科目	教育実習（幼小）	○	小学校での実習は、4年次の前期もしくは後期に4週間（20日間）で実施する。「観察実習」（小学校）「教職体験活動Ⅰ」「教職体験活動Ⅱ」の経験を踏まえ、学校教育現場における「観察」「参加」「指導実習」「省察」を通して、学級担任の役割と職務内容、学習指導要領や児童の実態に即した指導案の作成と教科指導、教科外のさまざまな場面における児童の指導、適切な情報機器の活用、学校・学級経営と学校実務、多様な児童の発達と学びなどについての理解を深め、実態に応じた実践的な指導力を身につける。幼稚園の実習は、4年次の前期もしくは後期に4週間（20日間）で実施する。「観察実習」（幼稚園）における体験学習を踏まえ、保育現場における「観察」「参加」「指導実習」「省察」を通して、学級担任の役割や職務内容、幼稚園教育要領や幼児の実態に即した指導計画の作成と指導・保育実践、さまざまな活動場面における多様な幼児の発達と学びなどについて理解を深め、実態に応じた実践的な指導力を身につける。	共同
専門科目	実習科目	保育実習指導Ⅰ（施設）	○	本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習Ⅰ（施設）」の実習事前・事後指導を目的として開講される。実習に参加するにあたって実習の意義や目的、方法について学び、実習を円滑に進めていくための知識、技能を修得する。また、自己課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。具体的な学習内容としては、児童福祉施設での役割、施設職員の職務内容、援助計画の立案、実習日誌の意義と記入、実習の心構え、自己課題の明確化、実習後の省察等である。	共同
専門科目	実習科目	保育実習指導Ⅰ（保育所）	○	本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習Ⅰ」の実習事前・事後指導を目的として開講される。実習参加に向けて、保育実習の意義や目的を理解するとともに、実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。また、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等の専門職倫理について理解する。さらに、実習で必要となる子どもの観察と記録、保育の計画、実践、評価の方法や内容について、具体的に理解する。実習後は、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	共同
専門科目	実習科目	保育実習Ⅰ（施設）	○	本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、保育所以外の児童福祉施設等を中心とする施設にて行う実習である。学内において行われる講義・演習・実技指導などを基礎として、施設保育士についての体験を積み、保育士として必要な資質・能力・技能を修得する。実習では、施設環境や一日の流れ、職務内容、子ども（利用者）のかかわり方・援助方法などを理解する。また、家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力を養うとともに、子育てを支援するために必要とされる能力を養う。	共同
専門科目	実習科目	保育実習Ⅰ（保育所）	○	保育実習Ⅰは、保育所（園）、「保育所型」または「幼保連携型」の認定子ども園で実施される。学内において行われる講義・演習・実技指導などを基礎として、保育士となるための経験を積み、保育士としての基本的な態度や能力を実践的に学ぶ。実習では、保育環境や一日の流れ、職務内容、乳幼児のかかわり方など、観察を中心として総合的に理解する。	共同
専門科目	実習科目	保育実習指導Ⅱ	○	本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習Ⅱ」の実習事前・事後指導を目的として開講される。実習参加に向けて、保育実習の意義や目的を理解するとともに、実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。また、実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等の専門職倫理について理解する。さらに、実習で必要となる子どもの観察と記録、保育の計画、実践、評価の方法や内容について、具体的に理解する。実習後は、事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。	共同
専門科目	実習科目	保育実習指導Ⅲ	○	本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習Ⅲ」の実習事前・事後指導を目的として開講される。実習に参加するにあたって実習の意義や目的、方法について学び、実習を円滑に進めていくための知識、技能を修得する。また、実習についての省察を通して自己課題を明確化するとともに、実習体験を深化させる。具体的な学習内容としては、児童福祉施設の役割、施設職員の職務内容、援助計画の立案、実習日誌の意義と記入、実習の心構え、自己課題の明確化、実習後の省察等である。	共同
専門科目	実習科目	保育実習Ⅱ	○	「保育実習Ⅰ（保育所）」での実習経験や学内での既習の教科目の成果を踏まえ、保育所やこども園等における保育実践を通して、保育所の役割と機能について、また子どもの保育と子育て支援について、総合的に理解を深めることを目的とする。より具体的には、保育の計画と実践、観察、記録、自己評価等について実際に取り組み、理解を深めるとともに、保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践の中で理解していく。最後に、実習における自己の課題について明確にする。	共同
専門科目	実習科目	保育実習Ⅲ	○	本科目は、「保育実習Ⅰ（施設）」での実習経験や学内での既習の教科目の成果を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能について総合的な理解を深めることを目的とする。特に家庭と地域の生活実態に触れて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識や技能、判断力を習得する。また保育士の業務内容や職業倫理について、具体的な実践の中で理解していく。最後に、実習における自己の課題について明確にする。	共同

専門科目	実習科目	教職実践演習(幼小)	○	教員養成段階で習得すべき最小限必要な資質能力である上記4つの事項の力量形成を組み込んだ内容の授業とする。授業形態は、履修カルテをもとにしたグループ討議、事例研究、模擬授業と授業研究、ロールプレイング等を取り入れた実践的な授業形態をとる。授業開始時に、受講生は各自の課題意識を研究レポート課題として設定し、授業の展開の中で吟味を重ね、授業の最終段階で、研究レポートとして発表し、討議し、成果を共有する。また授業に際しては、小学校校長経験者や現職教員と積極的な協力体制をとり、主として教職全般に関する科目で扱われる内容と教科に関する科目で扱われる内容を統合した複合的な観点から受講生の力量形成を図るとともに、入職への円滑な移行を見据えた実践的な指導もあわせて行う。	共同
専門科目	実習科目	保育・教職実践演習	○	保育・教職実践演習は、保育者・教員を目指して学んできた授業および実習の集大成である。これまでの学びの記録(教職履修カルテ、実習日誌等)や実習における体験により、自らの保育者・教員としての資質や実践力を振り返る。さらに振り返りに基づくディスカッションをとおして、自己と参加者相互の理解を深めつつ、保育者・教員としての課題とその解決方法を明確にする。また授業開始時に、受講生は各自の課題意識を研究レポート課題として設定し、授業の展開の中で吟味を重ね、授業の最終段階で、研究レポートとして発表し、討議し、成果を共有する。現代の幼児教育の実態や課題、子育てを取り巻く社会的状況、現代社会における保育者・教員の役割を正しく認識した上で、自分のキャリアについて展望を持てるようにする。	共同
専門科目	実習科目	特別支援学校教育実習指導	○	学生が、今までに関わってきた支援を必要とする児童生徒を中心にアセスメントを行い、その児童生徒への指導について、指導目的と指導方法を考察する。講義は、アクティブラーニングの方法を取り入れ、各自が発表を行う。また発表に対しての質疑応答によって、授業作りを体験する。特別支援学校の教育実習が円滑に行えることを講義の目的とする。また、具体的な指導案の作成方法や教材研究の仕方を学ぶことを重要視している。	共同
専門科目	実習科目	特別支援学校教育実習	○	特別支援学校の教育現場において、教員として実際に働くことを通じて、特別支援学校教員としての理念と技能を養うことを目的とする。また、一人一人の特別なニーズを持つ子どもの教育への実践力と特別支援学校教員としての資質を養う。小学校と特別支援学校に勤務していた実務経験をもとに、特別支援教育の実践や教員の授業作り等について話をする。	共同
専門科目	展開科目	多様な子どもの理解と支援		多様な特性や教育的ニーズのある子どもの診断基準や障害特性を理解するとともに、連続性のある多様な学びの場における具体的な支援方法を学ぶ。また、外国にルーツを持つ子どもやいじめを受けた子どもなど障害はないが教育的ニーズのある子どもたちの学習上又は生活上の困難を把握し、適切な支援ができるための基礎的な専門性を身につける。さらに障害の受容や障害のある子どもを持つ保護者との信頼関係や心理的理解、保護者支援についても学びを深める。	
専門科目	展開科目	多文化社会と学校園の教育		多文化化やグローバル化が進む現代社会には、貧困や格差、環境破壊や人権侵害など、世界中の国々や人々が協力しなければ解決することが難しい多くの問題(「地球的問題」と呼ばれる)が存在しています。そして、こうした状況を背景として、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」が提起され、その達成に向けた様々な取り組みが進められています。そうした中で、地球的問題の解決に向けて自ら考え、判断し、行動することのできる市民を育成することが、学校内外の教育活動において取り組むべき重要な課題の1つとなっています。この授業では、こうした課題に取り組む教育活動の1つである「持続可能な開発のための教育(Education for Sustainable Development: ESD)」に焦点をあてて、ESDの概要や関連する議論について理解するとともに、多文化社会における今後の学校園の教育に関して、自分なりのより良い実践のあり方を提案し、それを互いに検討し合うことで改善する機会を提供することをめざします。	
専門科目	展開科目	AIおよび教育データ活用入門		本授業では、一方的に授業を聞く時間だけでなく、受講生が実際にデジタル機器を触り、AIにも接しながら、実践的に議論できるような時間をもつ。このため、毎回の授業内容について、基礎的な知識と共に背景・狙い・目的などを提示した上で、簡単なデジタル機器の操作を行った後、授業で行う作業の流れを提示した上で、必要に応じてグループを作り、各自が手と頭を使いながら学習を行う。また、途中からは簡単なプレゼンテーションを受講生が行う場合もある。以上のような学習過程においては受講生からの入力データも積極的に用い、本授業を受講すること自体が、教育データ活用を体験する機会となることを狙っている。	
専門科目	展開科目	地域と学校園		学校が抱える課題が複雑化・困難化している状況の中、困難な課題を解決していくためには、より一層地域に開かれ、地域と積極的に向き合うことで、地域に信頼される学校づくりを進めていく必要がある。保護者や地域住民が学校運営に積極的に参画することで、学校をより良いものにしていくという当事者意識を高め、子供の教育に対する責任を社会的に分担していくことができる。本授業では、地域社会と学校との連携を通して豊かな実践を展開することの可能性および実践上の取り組むべき課題などについて、具体的な事例もふまえながら理解するとともに、今後、自身が教育者としてどのように関わっていくのかについての考えを深めることをねらいとする。 (オムニバス/全15回) (1 松下晴彦/7回) 第4回学校行事への地域の参加、第5回保護者との連携とは、第6回地域コミュニティの学校教育活動への協力、第7回地域行事への児童の参加、第9回地域にとっての学校とは、第11回学校評価とは、第13回コミュニティスクールとは (3 藤井浩史/8回) 第1回オリエンテーション、第2回授業で扱う地域教材(第1学年から第2学年)、第3回授業で扱う地域教材(第3学年から第5学年)、第8回外部講師(PTA、保護者会等)、第10回外部講師(地域コミュニティ、おやじの会等)、第12回学校運営協議会とは、第14回これからの学校と地域の連携・協働、第15回第1~14回のまとめと振り返り	オムニバス

専門科目	展開科目	初等教育セミナー（基礎）Ⅰ	○	初等教育に関する各種調査（文献調査、実地調査、実験、観察など）を実施するとともにその内容に基づく発表や議論を行うことを通じて、必要な知識や技能、研究手法等を身につけること、そして、それらをふまえて自身の興味関心と向き合い、研究課題を追求することをめざすセミナーである。担当教員の専門性に基づき、原則として「授業論」「学級経営」「多文化教育」「幼児教育」「学校論」「特別支援教育」「心理学」「保育」の8つのセミナーを開講する。受講生は、それまでに受講してきた諸科目の内容や課外活動などをもとに、興味のあるセミナーを選択し、学修を進める。なお、学修効果を保障する観点から、特定のセミナーの選択希望者が多い場合には、面談等も行いながら各セミナーに所属する受講生の人数調整を行う可能性がある。また、幅広い視野で自身の興味関心と向き合い、それに基づく研究課題を追求できるようにするために、「初等教育セミナー（基礎）Ⅱ」「初等教育セミナー（基礎）Ⅲ」「初等教育セミナー（基礎）Ⅳ」とは異なるセミナーを受講することを求める。	共同
専門科目	展開科目	初等教育セミナー（基礎）Ⅱ	○	初等教育に関する各種調査（文献調査、実地調査、実験、観察など）を実施するとともにその内容に基づく発表や議論を行うことを通じて、必要な知識や技能、研究手法等を身につけること、そして、それらをふまえて自身の興味関心と向き合い、研究課題を追求することをめざすセミナーである。担当教員の専門性に基づき、原則として「授業論」「学級経営」「多文化教育」「幼児教育」「学校論」「特別支援教育」「心理学」「保育」の8つのセミナーを開講する。受講生は、それまでに受講してきた諸科目の内容や課外活動などをもとに、興味のあるセミナーを選択し、学修を進める。なお、学修効果を保障する観点から、特定のセミナーの選択希望者が多い場合には、面談等も行いながら各セミナーに所属する受講生の人数調整を行う可能性がある。また、幅広い視野で自身の興味関心と向き合い、それに基づく研究課題を追求できるようにするために、「初等教育セミナー（基礎）Ⅰ」「初等教育セミナー（基礎）Ⅲ」「初等教育セミナー（基礎）Ⅳ」とは異なるセミナーを受講することを求める。	共同
専門科目	展開科目	初等教育セミナー（基礎）Ⅲ		初等教育に関する各種調査（文献調査、実地調査、実験、観察など）を実施するとともにその内容に基づく発表や議論を行うことを通じて、必要な知識や技能、研究手法等を身につけること、そして、それらを自身が卒業研究で扱おうとしているテーマとも関連づけることを通じて、自身の興味関心とさらに向き合い、問題意識を深化させることをめざすセミナーである。担当教員の専門性に基づき、原則として「授業論」「学級経営」「多文化教育」「幼児教育」「学校論」「特別支援教育」「心理学」「保育」の8つのセミナーを開講する。受講生は、それまでに受講してきた諸科目の内容や自身の卒業研究のテーマ、課外活動などをもとに、興味のあるセミナーを選択し、学修を進める。なお、学修効果を保障する観点から、特定のセミナーの選択希望者が多い場合には、面談等も行いながら各セミナーに所属する受講生の人数調整を行う可能性がある。また、幅広い視野で自身の興味関心と向き合い、それに基づく研究課題を追求できるようにするために、「初等教育セミナー（基礎）Ⅰ」「初等教育セミナー（基礎）Ⅱ」「初等教育セミナー（基礎）Ⅳ」とは異なるセミナーを受講することを求める。	共同
専門科目	展開科目	初等教育セミナー（基礎）ⅣⅠ		初等教育に関する各種調査（文献調査、実地調査、実験、観察など）を実施するとともにその内容に基づく発表や議論を行うことを通じて、必要な知識や技能、研究手法等を身につけること、そして、それらを自身が卒業研究で扱おうとしているテーマとも関連づけることを通じて、自身の興味関心とさらに向き合い、問題意識を深化させることをめざすセミナーである。担当教員の専門性に基づき、原則として「授業論」「学級経営」「多文化教育」「幼児教育」「学校論」「特別支援教育」「心理学」「保育」の8つのセミナーを開講する。受講生は、それまでに受講してきた諸科目の内容や自身の卒業研究のテーマ、課外活動などをもとに、興味のあるセミナーを選択し、学修を進める。なお、学修効果を保障する観点から、特定のセミナーの選択希望者が多い場合には、面談等も行いながら各セミナーに所属する受講生の人数調整を行う可能性がある。また、幅広い視野で自身の興味関心と向き合い、それに基づく研究課題を追求できるようにするために、「初等教育セミナー（基礎）Ⅰ」「初等教育セミナー（基礎）Ⅱ」「初等教育セミナー（基礎）Ⅲ」とは異なるセミナーを受講することを求める。	共同
専門科目	展開科目	初等教育セミナー（発展）Ⅰ	○	初等教育に関する研究課題の設定とその解決に向けた探究を行い、必要な知識や技能、研究手法等の修得をめざすセミナーである。初等教育セミナー（基礎）Ⅰ～Ⅳ、ならびにそれまでに受講してきた諸科目の内容などをもとに、自身が探究したいと考える研究課題を設定し、課題の解決に向けた文献調査や実地調査などの各種調査を行い、その結果に対する分析や考察などを加えていく。本セミナーは、受講生の研究課題や研究手法などをもとに少人数グループに分かれ、専門分野の近い教員が各グループを担当するかたちで実施することを基本とする。ただし、適宜、他のグループと合同での検討会も実施し、互いの研究活動の交流と深化も図る。	共同
専門科目	展開科目	初等教育セミナー（発展）Ⅱ	○	初等教育に関して設定した研究課題の精緻化とそれに基づく探究を行い、課題の解決をめざすセミナーである。初等教育セミナー（発展）Ⅰの内容をさらに深化・発展させるかたちで進めていく。本セミナーは、受講生の研究課題や研究手法などをもとに少人数グループに分かれ、専門分野の近い教員が各グループを担当するかたちで実施することを基本とする。加えて、他のグループと合同での発表会も実施し、そこに他学年の学生も参加することによって、互いの研究活動の交流と深化も図る。	共同
専門科目	展開科目	卒業研究	○	初等教育学科での学修の集大成として、これまでの学びから得た知見と問題意識に基づいて研究テーマを設定し、各自が立案した研究計画に従って、実地調査、文献調査、情報収集、実践活動等を行ない、その結果に対して分析や考察を加え、その研究成果を、卒業論文または卒業制作の形にまとめ提出する。なお、卒業制作についてはその趣旨もしくは概要を記した文書を提出する。	共同

基礎教育科目	必修区分		基礎禅学	○	禅入門講座と坐禅の実習 世界に唯一の臨済禅の四年制大学に在学する諸君は、禅入門講座と坐禅の実習を通じて、本学の教学の基本である「禅」とは何かについて、一応の常識を得て卒業して欲しい。本講座を全学生一回生必修科目とする所以である。	
基礎教育科目	必修区分		人権総論	○	本講義は、人権をめぐる現状について基礎的な内容を把握した上で、基本的人権（総論）、気候変動、労働、ネットバッシング、ジェンダー（社会的性差）、LGBT、障害児者、介護、安楽死、貧困と生存権、優生思想、仏教と人権などをキーワードに、なぜ人権が尊重されなければならないのかを学習する。本年度は、こうした講義を、それぞれの専門家のオムニバスを中心に実施する。とくに障害者差別の典型的な思想である優生思想を取り上げる。さらに、具体的な事象であるナチス・ドイツによるT4作戦やホロコーストといった歴史を紹介する。また、最大の人権侵害が戦争であることから、戦争と核兵器、平和の問題についてもその歴史的教訓を探っていきたい。これらを踏まえ、今後、人権問題の解決に向けて何が求められるのか、共生社会の実現に必要な課題とは何かについて考えたい。	
基礎教育科目	必修区分		英語 I	○	英語は世界の共通語であり、みなさんの世界を広げてくれます。この授業では、英文エッセイを読み進めていくことで異文化理解を深め、そしてコミュニケーションに必要な総合的な英語運用能力の向上を目指します。トピックは各国の風習や食文化など、興味深い内容となっています。テキストに沿って語彙、表現、作文、リスニングなどの演習を行うなかで、高校までの既習内容の確認も適宜行います。	
基礎教育科目	必修区分		英語 II	○	英語は世界の共通語であり、みなさんの世界を広げてくれます。この授業では、英文エッセイを読み進めていくことで異文化理解を深め、そしてコミュニケーションに必要な総合的な英語運用能力の向上を目指します。トピックは各国の風習や食文化など、興味深い内容となっています。テキストに沿って語彙、表現、作文、リスニングなどの演習を行うなかで、高校までの既習内容の確認も適宜行います。	
基礎教育科目	必修区分		学びのナビゲーション：大学入門	○	(分担)6 岸本実、9 安田誠人、15 三好真史、① 等々力花歩（偶数年度）、5 北林雅洋、4 菅道子、10 林悠子、13 川島民子（奇数年度） 「学びのナビゲーション：大学入門」は、すべての新入生を対象にした必修科目です。 この授業は、受講生が以下のスキルを身に付けることができるよう計画されています。授業の中では、先生による説明を聞くだけでなく、課題に積極的に取り組む姿勢が求められます。 ・大学の授業に慣れ、講義ノートを取れるようになること ・文章を適切に読解できるようになること ・客観的な思考に基づいて文章を書けるようになること ・図書館などを活用して自分自身で文献を探せるようになること	分担
基礎教育科目	必修区分		学びのナビゲーション：進路を考える	○	(分担)5 北林雅洋、4 菅道子、10 林悠子、13 川島民子（偶数年度）、6 岸本実、9 安田誠人、15 三好真史、① 等々力花歩（奇数年度） それぞれの受講生が、大学在学中および卒業後にどんな人生を歩んでいきたいかを想像できるようになること、そしてその想像を実現していくために大学生活をどのように送りたいかを考え、実践できるようになることを目標とする授業です。授業の中では、進路について考える時間だけでなく、どんな進路を歩んでも必要となるスキル（コミュニケーションに関するスキル）を高めることも目指します。	分担
基礎教育科目	選択区分	教養科目群	心理学概論		本講義では、「心理学」という広大な学問について幅広く扱い、その基本的知見について概観し、共に考えていきます。 毎回そのテーマに関する資料を配布し、それに基づいて授業を進めます。毎回の講義後、その日の学びを振り返る小課題を課します。次の講義のはじめに、その課題についてフィードバックを行いながら、前テーマを復習します。	
基礎教育科目	選択区分	教養科目群	禅とこころ I		「建学の精神」である禅仏教による人格の陶冶をテーマに、「禅・仏教講座」として開設する。 禅の世界をあらゆる角度から捉え感得するため総長、仏教学科教員を中心に授業を展開する。その他、いす坐禅・読経など実践を行う。	
基礎教育科目	選択区分	教養科目群	禅とこころ II		「建学の精神」である禅仏教による人格の陶冶をテーマに、「禅・仏教講座」として開設する。 禅の世界をあらゆる角度から捉え感得するため総長、仏教学科教員を中心に授業を展開する。その他、いす坐禅・読経など実践を行う。	
基礎教育科目	選択区分	教養科目群	国のしくみ（日本国憲法）	○	日本国憲法の三原則は、国民主権、平和主義、基本的人権の尊重である。 国民主権を理解するには、法の支配、民主主義、国民国家、大日本国憲法と日本国憲法の違い、国民主権の内実を考察しなければならない。同時に、三権分立とその実態、大統領制と議院内閣制、国会の仕組みと政党の機能、官邸と各省庁の関係、裁判所の機能とその限界、地方自治と地方公共団体など統治機構の基本を学ぶ必要がある。 平和主義については、憲法9条の世界史的意義を理解するとともに、グローバル経済の支配が進展し、「国民国家の黄昏」という現象が進む中、国際平和と人類の福祉を追求する方途を探求することが求められる。 基本的人権については、人間の尊厳、人権の限界、法の下での平等、思想及び良心の自由、政教分離、表現の自由、生存権、社会権、教育を受ける権利、労働基本権の理念とその実際について学ぶ。特に、大衆民主主義社会において平等が強く志向される中、人間の自由の尊重をどう担保するか考える。こうした議論を通して憲法に関わる自分自身の見方・考え方を育てるとともに、「分かち合う共同体」の一員として参画する力を身につけてもらいたい。	

基礎教育科目	選択区分	教養科目群	アカデミック・ライティング入門	アカデミック・ライティングとは、学術的な文章を書くことである。大学で求められるレポートや卒業論文は、感想文とは異なり、自身の主張を客観的かつ論理的に、根拠に基づいて述べる必要がある。この授業では、このようなアカデミック・ライティングに関する基礎知識や文献の探し方・読み方、レポートの具体的な書き方について学び、それらを活用して実際に一からミニレポートを作成する。これらの内容を通して、文献の内容を理解する力、信頼性の高い文献を探す力、論理的な文章を書く力を身につけることを目指す。	
基礎教育科目	選択区分	教養科目群	ボランティアの理論と実践 I	本講義は、「ボランティア」と呼ばれる営みについて学ぶものです。教室での座学だけでなく、ボランティア現場でのフィールドワーク実践を行います。ボランティアをする人々が何を思い、どんな期待や苦悩を抱えているのか、ボランティアをすることで何が得られるのか、といったことを実体験を通じて得ることを目指します。	
基礎教育科目	選択区分	教養科目群	ボランティアの理論と実践 II	本講義は、「ボランティア」と呼ばれる営みについて学ぶものです。教室での座学だけでなく、ボランティア現場でのフィールドワーク実践を行います。ボランティアをする人々が何を思い、どんな期待や苦悩を抱えているのか、ボランティアをすることで何が得られるのか、といったことを実体験を通じて得ることを目指します。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	General English I	英語が苦手、不得意。でもできるようになりたい—そんな思いに応える、「英語を基礎から勉強し直すため」のクラスです。中学校・高校までに学んだ英語を復習しながらポイントを整理することで、初歩の初歩からきちんと力をつけていきます。文法や表現のほか、リスニングや発音などのスキル向上も目指します。英語を基本からやり直したいみなさん、受講をお待ちしています。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	General English II	英語が苦手、不得意。でもできるようになりたい—そんな思いに応える、「英語を基礎から勉強し直すため」のクラスです。中学校・高校までに学んだ英語を復習しながらポイントを整理することで、初歩の初歩からきちんと力をつけていきます。文法や表現のほか、リスニングや発音などのスキル向上も目指します。英語を基本からやり直したいみなさん、受講をお待ちしています。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	English Workshop I	スピーチ原稿、ブログ、電子メール、説明文といった様々なテキストジャンルに触れ、物事をじっくり考えたり、受講者同士で意見を交換するなかで、自分の考えを深める活動を行います。また、まとまった英文を読解したうえで、自分の意見や考えをライティングします。この授業では、英文をクリティカルな視点でライティングする態度・技能を身に付けることを目指します。例えば、英文の修辞技法を意識したり、事実(fact)や意見(opinion)を区別して記述したり、書き手の主張の確からしさを評価したりします。さらに、修辞法やパラグラフの基本的な構成についての理解を基に、読み手に伝わりやすい英文の在り方を学びます。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	English Workshop II	スピーチ原稿、ブログ、電子メール、説明文といった様々なテキストジャンルに触れ、物事をじっくり考えたり、受講者同士で意見を交換するなかで、自分の考えを深める活動を行います。また、まとまった英文を読解したうえで、自分の意見や考えをライティングします。この授業では、英文をクリティカルな視点でライティングする態度・技能を身に付けることを目指します。例えば、英文の修辞技法を意識したり、事実(fact)や意見(opinion)を区別して記述したり、書き手の主張の確からしさを評価したりします。さらに、修辞法やパラグラフの基本的な構成についての理解を基に、読み手に伝わりやすい英文の在り方を学びます。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	Listening Skills I	リスニングの力を伸ばすには、自分で発音できることが重要です。英語の“did”の“i”と日本語の「い」は同じ音のように思いますが、実は違います。また、「彼は」の“he”を「ヒー」と発音していませんか？これも実は「ヒー」ではありません。どのように違うのでしょうか？この授業では適宜、日本語の音との違いに触れながら、英語の発音の仕方一つひとつ学んでいきます。その上で、映画などのコンテンツを視聴し、リスニング演習を行うことで、英語の音に慣れ親しみ、リスニングスキルを確実に身につけていきます。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	Listening Skills II	リスニングの力を伸ばすには、自分で発音できることが重要です。英語の“did”の“i”と日本語の「い」は同じ音のように思いますが、実は違います。また、「彼は」の“he”を「ヒー」と発音していませんか？これも実は「ヒー」ではありません。どのように違うのでしょうか？この授業では適宜、日本語の音との違いに触れながら、英語の発音の仕方一つひとつ学んでいきます。その上で、映画などのコンテンツを視聴し、リスニング演習を行うことで、英語の音に慣れ親しみ、リスニングスキルを確実に身につけていきます。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	Reading Skills I	さまざまなトピックの英文を読み進めていくことにより、正確な読解力を習得します。英文を読みこなすには、語彙、慣用表現、文法などに関する知識が欠かせません。適宜これらの復習・振り返りを行うことで、読解力を確実に身につけていきます。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	Reading Skills II	さまざまなトピックの英文を読み進めていくことにより、正確な読解力を習得します。英文を読みこなすには、語彙、慣用表現、文法などに関する知識が欠かせません。適宜これらの復習・振り返りを行うことで、読解力を確実に身につけていきます。	

基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	異文化理解 I		In this course, you will learn how culture shapes identity, communication, and values. Through discussion, case studies, and examples, we will explore diverse cultural practices. The course is designed to satisfy your curiosity by developing empathy, critical thinking, and intercultural communication skills. この授業では、文化によってアイデンティティ、コミュニケーション、価値観がどのように形成されるのかを学びます。ディスカッション、ケーススタディ、事例を通して、多様な文化的慣習を探求します。共感性や批判的思考を養い、異文化間コミュニケーション力を身につけるなど、みなさんの好奇心を満たす内容となっています。教材やアクティビティでは主に英語を利用します。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	異文化理解 II		In this course, you will learn how culture shapes identity, communication, and values. Through discussion, case studies, and examples, we will explore diverse cultural practices. The course is designed to satisfy your curiosity by developing empathy, critical thinking, and intercultural communication skills. この授業では、文化によってアイデンティティ、コミュニケーション、価値観がどのように形成されるのかを学びます。ディスカッション、ケーススタディ、事例を通して、多様な文化的慣習を探求します。共感性や批判的思考を養い、異文化間コミュニケーション力を身につけるなど、みなさんの好奇心を満たす内容となっています。教材やアクティビティでは主に英語を利用します。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	Communicative English I		In this class, students will learn the basic communication strategies needed to have meaningful conversations in English. Students will learn useful expressions, practice speaking through model conversations, and develop into real conversations. このクラスでは、英語で有意義な会話をするために必要な基本的なコミュニケーション戦略を身につけます。有用な表現を学び、モデル会話を通して会話の練習をし、実際の会話へと発展させていきます。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	Communicative English II		In this class, students will learn the basic communication strategies needed to have meaningful conversations in English. Students will learn useful expressions, practice speaking through model conversations, and develop into real conversations. このクラスでは、英語で有意義な会話をするために必要な基本的なコミュニケーション戦略を身につけます。有用な表現を学び、モデル会話を通して会話の練習をし、実際の会話へと発展させていきます。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	TOEICコース I		TOEIC(The Test of English for International Communication)は、英語コミュニケーション能力を測るテストとして世界各国で実施されており、就職時に英検などと同様、そのスコアが問われることも少なくありません。この授業では演習を重ねていき、読解・語彙・文法・リスニングなど、総合的な実力を身につけていきます。 就職や進学でTOEICのスコアが必要な方、あるいは受験するかどうかは決めていなくても、実力を身につけたい!英語ができるようになりたい!という方に向けて、効果的に英語力を伸ばすトレーニングを行います。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	TOEICコース II		TOEIC(The Test of English for International Communication)は、英語コミュニケーション能力を測るテストとして世界各国で実施されており、就職時に英検などと同様、そのスコアが問われることも少なくありません。春学期に引き続き、読解・語彙・文法・リスニングなど、総合的な実力をさらに身につけていきます。 就職や進学でTOEICのスコアが必要な方、あるいは受験するかどうかは決めていなくても、実力を身につけたい!英語ができるようになりたい!という方に向けて、効果的に英語力を伸ばすトレーニングを行います。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	時事英語 I		「時事英語」というと難しく思うかもしれませんが、この授業ではなるべく私たちの生活に身近な、日常的なトピックを取り上げていきます。その内容を読み進めていくことで、まずは時事英語そのものに慣れ親しむことに主眼を置きたいと思います。授業ではプリントの他に、「VOA Learning English」のサイトにもアクセスし、その時々「旬」なニュースを読んでいます。比較的平易な英文で書かれていますので読みやすく、また、世界で起きているさまざまなニュースについて知ることができます。英文の内容を理解するには、語彙力や文法力が欠かせません。発音などにも触れながら、これらの向上を図ることに重点を置きます。自信がなくても大丈夫です。英語の力を伸ばしたい皆さん、お待ちしております。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	時事英語 II		「時事英語」というと難しく思うかもしれませんが、この授業ではなるべく私たちの生活に身近な、日常的なトピックを取り上げていきます。その内容を読み進めていくことで、まずは時事英語そのものに慣れ親しむことに主眼を置きたいと思います。授業ではプリントの他に、「VOA Learning English」のサイトにもアクセスし、その時々「旬」なニュースを読んでいます。比較的平易な英文で書かれていますので読みやすく、また、世界で起きているさまざまなニュースについて知ることができます。英文の内容を理解するには、語彙力や文法力が欠かせません。発音などにも触れながら、これらの向上を図ることに重点を置きます。自信がなくても大丈夫です。英語の力を伸ばしたい皆さん、お待ちしております。	

基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	短期留学（英語）	<p>本学提携校である、カナダのカルガリー大学(University of Calgary)にて、8月上旬から約1か月間、英語研修を行います。文法、会話、読解、作文、語彙、発音など、総合的なスキルアップを目指します。いろいろなアクティビティもあります。期間中はホームステイをしますので、異文化を体験する大変貴重な機会となりますし、また、自分の視野を大きく広げることができるでしょう。海外に暮らしながら英語を学ぶことができる、またとないチャンスです。カナダに行きましょう！</p> <p>英語に自信がなくても心配無用です。クラス分けがあり、自分に最適なクラスで学べます。</p>	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	ハングル入門Ⅰ	<p>この授業では、身近な単語やフレーズを通じてハングルの発音の仕組みとルールを習得し、正しい発音を身につけるとともに、文字の読み書きができるようになることを目指します。さらに、文法と会話の基礎を鍛えます。授業は教科書に沿って進め、一つの課を1～2回で終えるペースで進みます。わかりやすく、楽しい授業を心がけます。</p> <p>語学学習には継続的な学習がとても重要です。より確実にスキルを身につけるためにも、前期の『ハングル入門Ⅰ』と後期の『ハングル入門Ⅱ』、両方の受講をおすすめします。</p>	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	ハングル入門Ⅱ	<p>この授業では、韓国語の初級レベルで使う文法と基礎的な表現を学びます。場面別の会話を通じて、自分の趣味、日常の行動、過去の出来事などを表現できるようになります。授業は教科書に沿って進め、一つの課を1～2回で終えるペースで進みます。</p> <p>語学学習には継続的な学習がとても重要です。より確実にスキルを身につけるためにも、前期の『ハングル入門Ⅰ』と後期の『ハングル入門Ⅱ』、両方の受講をおすすめします。</p>	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	韓国文化Ⅰ	<p>本講義は歴史・衣食住・冠婚葬祭などの韓国文化における様々なテーマについて、韓国文化全般に対する通時的・共時的な観点から理解する一方で、比較文化の観点から日本文化との類似点・差異点に注目しながら考察することで、さらに理解を深め、自分なりの文化観を構築することを目指します。はじめて韓国文化に触れる人にとってもわかりやすく楽しい授業を心がけます。</p>	隔年
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	韓国文化Ⅱ	<p>本講義は文化遺産・観光・文学などの韓国文化における様々なテーマについて、韓国文化全般に対する通時的・共時的な観点から理解する一方で、比較文化の観点から日本文化との類似点・差異点に注目しながら考察することで、さらに理解を深め、自分なりの文化観を構築することを目指します。はじめて韓国文化に触れる人にとってもわかりやすく楽しい授業を心がけます。</p>	隔年
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	ハングル実用会話Ⅰ	<p>本授業は、韓国語の基本となる文字、ハングルをしっかりと学習（1-4回）した上で、テキストの会話文を中心に「読む」「聞く」「話す」「書く」練習を重ねる（5-15回）ことで、正しい基礎韓国語（ハングル）を身につけることを目指します。はじめて韓国語を学習する人にとってもわかりやすく楽しい授業を心がけます。語学学習には継続的な学習が大切です。より着実に韓国語を身につけるために、本授業と後期の「ハングル実用会話Ⅱ」の両方の受講をおすすめします。</p>	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	ハングル実用会話Ⅱ	<p>本授業は、ハングルをしっかりと学習した上で、テキストの会話文を中心に初級レベルの基礎表現と文型を学びます。楽しく「読む」「聞く」「話す」「書く」練習を重ねることで、韓国語の基本をしっかりと身につけ、次のステップに無理なく進めるようになることを目指します。語学学習には継続的な学習が大切です。より着実に韓国語を身につけるために、本授業と前期の「ハングル実用会話Ⅰ」の両方の受講をおすすめします。</p>	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国語入門Ⅰ	<p>中国には、北京や西安のように世界遺産が多い歴史的な都市もあれば、上海や深圳のように活気あふれる現代都市もあります。さらに、中国料理、漢方、武術、漢服など、多彩で魅力的な文化を持っています。</p> <p>授業では、中国文化に触れながら、楽しく中国語を学びます。</p> <p>また、中国語の発音や基礎文法を習得し、挨拶・自己紹介・初級レベルの会話練習を行います。</p> <p>「聞く・読む・話す・書く」能力をバランスよく伸ばし、中国語の簡体字の読み書きや基礎文法をしっかりと身につけます。</p> <p>これにより、将来的に独学で中国語を学習する力を養います。</p>	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国語入門Ⅱ	<p>中国には、北京や西安のように世界遺産が多い歴史的な都市もあれば、上海や深圳のように活気あふれる現代都市もあります。さらに、中国料理、漢方、武術、漢服など、多彩で魅力的な文化を持っています。</p> <p>授業では、中国文化に触れながら、楽しく中国語を学びます。</p> <p>また、中国語の発音や基礎文法を習得し、挨拶・自己紹介・初級レベルの会話練習を行います。</p> <p>「聞く・読む・話す・書く」能力をバランスよく伸ばし、中国語の簡体字の読み書きや基礎文法をしっかりと身につけます。</p> <p>これにより、将来的に独学で中国語を学習する力を養います。</p>	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国理解Ⅰ	<p>この授業では、中国の伝統文化、歴史、社会、民族、教育、都市と農村について紹介し、資料や映像、映画鑑賞を通じて、中国の歴史や近現代の社会、文化への理解を深めていきます。さらに、自国の文化と比較しながら、共通点と相違点を見出し、その背景にある歴史や価値観、考え方を分析・議論します。</p> <p>前期では、中国の言語、民族、教育、家族、都市と農村を中心に学びます。</p>	隔年
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国理解Ⅱ	<p>この授業では、中国の伝統文化、歴史、社会、民族、教育、都市と農村を主なテーマとして紹介し、資料や映像、映画鑑賞を通じて、中国の歴史や近現代の社会、文化に対する理解を深めていきます。さらに、自国の文化と比較しながら、共通点と相違点を見出し、その背景にある歴史や価値観、考え方を分析・議論します。</p> <p>後期では、中国の伝統文化、歴史、社会を中心に学びます。</p>	隔年
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国語会話Ⅰ	<p>中国語の初級会話と発音を授業テーマとし、中国語の初級会話と正確な発音を習得する。</p> <p>学習を通じて、中国語の簡単な日常会話の能力と正確な発音を養成することを目標とする。</p>	

基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国語会話Ⅱ		中国語の初級会話と発音を授業テーマとし、中国語の初級会話と正確な発音を習得する。 学習を通じて、中国語の簡単な日常会話の能力と正確な発音を養成することを目標とする。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国語初級Ⅰ		入門から、実際に使うことを想定した場面設定によって実用的な中国語が身につく。 中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができ、具体的なコミュニケーションを行うことができる、中国語学習するための基礎能力も備え、HSK1級に合格することを目指す。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国語初級Ⅱ		入門から、実際に使うことを想定した場面設定によって実用的な中国語が身につく。 中国語の非常に簡単な単語とフレーズを理解、使用することができ、具体的なコミュニケーションを行うことができる、中国語学習するための基礎能力も備え、HSK1級に合格することを目指す。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国文化論Ⅰ		資料や映像を通して、私たちが日常的に感じている「現代中国文化」（中国の祝日、音楽、建築、伝統絵画、伝統工芸、世界遺産、茶文化、食文化など）の有様をリアルに理解することを中心に授業を行う。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	中国文化論Ⅱ		資料や映像を通して、私たちが日常的に感じている「現代中国文化」（中国の祝日、音楽、建築、伝統絵画、伝統工芸、世界遺産、茶文化、食文化など）の有様をリアルに理解することを中心に授業を行う。	
基礎教育科目	選択区分	外国語科目群	短期留学（中国語）		本校の提携校である中国の蘇州大学にて、8月に約2週間の留学をします。本留学プログラムは、中国語研修や課外活動を通じて、中国語能力を向上させ、文化交流を促進することを目的とした協定留学です。蘇州大学で受講した科目は、本学の基礎教育科目の外国語科目として単位認定されます。 蘇州（Suzhou）は、美しい庭園や伝統的な文化と歴史、そして近代的な発展が融合した都市です。蘇州大学は1900年に創設され、100年以上の歴史を有する大学です。日本全国はもちろん、世界各国からも留学生が集まり、中国語を集中的に学んでいます。 中国語の基礎学力を身につけて参加するのが望ましいですが、実力に応じたクラス編成が行われるため、初級者でも安心して参加できます。 新しい知識を学び、多くの人と交流し、留学を通じて人生に新たな光を見つけてみましょう！	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技Ⅰ		バレーボールは、テニスをヒントに、女性や子供が気軽に楽しめるレクリエーションとして1895年2月9日、アメリカ合衆国でウィリアム・G・モーガンによって考案された。YMCAを中心に世界に広がりを見せ、約110数年で日本においても学校や競技、レクリエーションに至るまでバレーボールは広がりを見せている。本授業においては、生涯にわたりバレーボールに親しみ、仲間と共に協力し合い、楽しむことを目的とする。 講義中の課題解決などグループディスカッションやグループワーク、学生によるプレゼンテーションを行なう。また、課題やレポート等に対してのフィードバックは解説やレポートにコメントを返します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技Ⅱ		バレーボールは、テニスをヒントに、女性や子供が気軽に楽しめるレクリエーションとして1895年2月9日、アメリカ合衆国でウィリアム・G・モーガンによって考案された。YMCAを中心に世界に広がりを見せ、約110数年で日本においても学校や競技、レクリエーションに至るまでバレーボールは広がりを見せている。本授業においては、生涯にわたりバレーボールに親しみ、仲間と共に協力し合い、楽しむことを理解することを目的とする。 講義中の課題解決などグループディスカッションやグループワーク、学生によるプレゼンテーションを行なう。また、課題やレポート等に対してのフィードバックは解説やレポートにコメントを返します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技Ⅲ		この授業では、バレーボールおよびバドミントンの基本的な技術を身につけてゲームを楽しむことができるようになることを目指す。 授業の中では、チームあるいはペアにおいて受講生相互の技術的問題点について話し合い、解決策を探ることにより対話的、主体的に技術向上を目指す。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技Ⅳ		本授業では、バドミントンの基本技術や戦術を習得し、試合形式での実践力を養うことを目的とします。授業は初心者から中級者を対象としており、基本的なルールの理解から始め、ラケットの握り方やショットといった基礎的な動作を段階的に学びます。クリア、ドロップショット、スマッシュなど多様なショットの技術練習を行い、状況に応じた適切なショット選択やラリーを継続する力を身につけます。さらに、シングルスおよびダブルスの戦術も取り入れ、実戦的なスキルを高めます。授業の後半では、ゲーム形式の練習を通じて個々の課題を明確にし、改善を図ります。最終的に、バドミントンを楽しみながら体力や反応速度、チームワーク力を向上させるとともに、生涯スポーツとしての魅力を体感することを目指します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技Ⅴ		本授業では、バドミントンの基本技術や戦術を習得し、試合形式での実践力を養うことを目的とします。授業は初心者から中級者を対象としており、基本的なルールの理解から始め、ラケットの握り方やショットといった基礎的な動作を段階的に学びます。クリア、ドロップショット、スマッシュなど多様なショットの技術練習を行い、状況に応じた適切なショット選択やラリーを継続する力を身につけます。さらに、シングルスおよびダブルスの戦術も取り入れ、実戦的なスキルを高めます。授業の後半では、ゲーム形式の練習を通じて個々の課題を明確にし、改善を図ります。最終的に、バドミントンを楽しみながら体力や反応速度、チームワーク力を向上させるとともに、生涯スポーツとしての魅力を体感することを目指します。	

基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技Ⅵ		バレーボールは、テニスをヒントに、女性や子供が気軽に楽しめるレクリエーションとして1895年2月9日、アメリカ合衆国でウィリアム・G・モーガンによって考案された。YMCAを中心に世界に広がりを見せ、約110数年で日本においても学校や競技、レクリエーションに至るまでバレーボールは広がりを見せている。本授業においては、生涯にわたりバレーボールに親しみ、仲間と共に協力し合い、楽しめることを理解することを目的とする。講義中の課題解決などグループディスカッションやグループワーク、学生によるプレゼンテーションを行なう。また、課題やレポート等に対してのフィードバックは解説やレポートにコメントを返します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技Ⅶ		硬式テニスとバドミントンの基本的な技術や試合のルールを習得し、最終的にはゲームを行います。協力して戦略を考え、受講者全員が楽しくゲームができるようになることを目的とします。授業の中では相互の活発なコミュニケーションを奨励し、主体的な学びを通して各個人が社会生活の中で自信を持って過ごせるようになることを目指します。初心者を中心に指導しますが、経験者も歓迎します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技Ⅹ	○	近年においては、運動習慣の低下が社会問題になっており、運動の果たす役割が重要視されている。運動好きな子どもを育てるためには、授業の中で運動に興味を持たせ、できる喜びを感じさせる必要があり、教師の資質が問われることになる。本講義では、幼児期の発育や発達を理解しながら、安全に楽しく運動に親しませることができるよう、様々な運動を体験し、理解することを目的とする。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技ⅩⅠ		バレーボールは、テニスをヒントに、女性や子供が気軽に楽しめるレクリエーションとして1895年2月9日、アメリカ合衆国でウィリアム・G・モーガンによって考案された。YMCAを中心に世界に広がりを見せ、約110数年で日本においても学校や競技、レクリエーションに至るまでバレーボールは広がりを見せている。本授業においては、生涯にわたりバレーボールに親しみ、仲間と共に協力し合い、楽しめることを理解することを目的とする。講義中の課題解決などグループディスカッションやグループワーク、学生によるプレゼンテーションを行なう。また、課題やレポート等に対してのフィードバックは解説やレポートにコメントを返します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技ⅩⅡ		私達が「身体を動かす」ということは、どういうことなのでしょう？1世紀以上も前にルー（Roux）は「すべての器官は適度に使えば機能的にも形態的にも発達するが、使い過ぎれば発達は損なわれるし、使わなければ機能も形態も低下していく」と述べています。本授業では、運動によって身体にどのような変化が起こるのかについて、主に屋内スポーツの実践活動を通じて理解を深めることを目的としています。運動の“？”について、一緒に考えていきましょう。なお、本授業は実技中心となりますので、皆さんの主体的かつ積極的な身体活動が必須です。授業中も絶えずフィードバックを行い、受講者の健康に対する考え方や体力づくりについて学びを深めますので、体調管理には十分留意してください。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技ⅩⅢ		バレーボールは、テニスをヒントに、女性や子供が気軽に楽しめるレクリエーションとして1895年2月9日、アメリカ合衆国でウィリアム・G・モーガンによって考案された。YMCAを中心に世界に広がりを見せ、約110数年で日本においても学校や競技、レクリエーションに至るまでバレーボールは広がりを見せている。本授業においては、生涯にわたりバレーボールに親しみ、仲間と共に協力し合い、楽しめることを理解することを目的とする。講義中の課題解決などグループディスカッションやグループワーク、学生によるプレゼンテーションを行なう。また、課題やレポート等に対してのフィードバックは解説やレポートにコメントを返します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技ⅩⅣ		この授業では、バレーボールおよびバドミントンの基本的な技術を身につけてゲームを楽しむことができるようになることを目指す。授業の中では、チームあるいはペアにおいて受講生相互の技術的問題点について話し合い、解決策を探ることにより対話的、主体的に技術向上を目指す。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技ⅩⅤ		本授業では、バドミントンの基本技術や戦術を習得し、試合形式での実践力を養うことを目的とします。授業は初心者から中級者を対象としており、基本的なルールの理解から始め、ラケットの握り方やショットといった基礎的な動作を段階的に学びます。クリア、ドロップショット、スマッシュなど多様なショットの技術練習を行い、状況に応じた適切なショット選択やラリーを継続する力を身につけます。さらに、シングルスおよびダブルスの戦術も取り入れ、実践的なスキルを高めます。授業の後半では、ゲーム形式の練習を通じて個々の課題を明確にし、改善を図ります。最終的に、バドミントンを楽しみながら体力や反応速度、チームワーク力を向上させるとともに、生涯スポーツとしての魅力を体感することを目指します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技ⅩⅥ		本授業では、バドミントンの基本技術や戦術を習得し、試合形式での実践力を養うことを目的とします。授業は初心者から中級者を対象としており、基本的なルールの理解から始め、ラケットの握り方やショットといった基礎的な動作を段階的に学びます。クリア、ドロップショット、スマッシュなど多様なショットの技術練習を行い、状況に応じた適切なショット選択やラリーを継続する力を身につけます。さらに、シングルスおよびダブルスの戦術も取り入れ、実践的なスキルを高めます。授業の後半では、ゲーム形式の練習を通じて個々の課題を明確にし、改善を図ります。最終的に、バドミントンを楽しみながら体力や反応速度、チームワーク力を向上させるとともに、生涯スポーツとしての魅力を体感することを目指します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	体育実技ⅩⅦ		硬式テニスとバドミントンの基本的な技術や試合のルールを習得し、最終的にはゲームを行います。協力して戦略を考え、受講者全員が楽しくゲームができるようになることを目的とします。授業の中では相互の活発なコミュニケーションを奨励し、主体的な学びを通して各個人が社会生活の中で自信を持って過ごせるようになることを目指します。初心者を中心に指導しますが、経験者も歓迎します。	

基礎教育科目	選択区分	体育科目群	スポーツ社会学	現代社会におけるスポーツの役割は多様である。我々の生活の中でもスポーツに関わることが多い。スポーツを「する」のみでなく「観る」こともある。スポーツの観戦は勿論、テレビの番組やニュースなどで観ることは日常である。また、「支える」スポーツとしても、企画や経営からボランティアの立場まである。近年、インターネットの普及により「情報」としてのスポーツは常に速報で入手可能になった。本講義では、運動・スポーツが政治、経済、社会、文化、日常生活と強い係わりを持ち、どのような役割を担っているのか理解することを目的とする。講義中の課題解決にともないグループディスカッションやグループワークを行なう。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	健康学	この授業では、健康を維持するための基盤となる「運動」に主に焦点を当て、運動の重要性とその効果を中心に学習する。理論と実践を通じて、健康維持や生活習慣病の予防、運動習慣の形成を目指す。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	運動科学論	私たちは、身体を動かす、つまり「運動する」ことによって、外の世界と関わることができる。このように「運動」とは、スポーツ動作のように強度の高いものに限らず、日々の生活の中で欠かすことのできない非常に身近なものである。この講義では、ヒトの運動のしくみについて理解することで、運動を通して自分や他者への理解を深めることを目標とする。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	アダプテッド・エクササイズ論	アダプテッド(Adapted)とは「適合した」という意味である。アダプテッド・エクササイズは、障がいのある人・高齢者・子供・女性などに合わせて種々の工夫を行うことで、それらの人々の身体運動への積極的な参加が可能になるという考え方(Sports for All)に基づく。身体運動への積極的な参加は、心身の健康・他者との交流・自己実現・社会活動への積極的な参加にもつながり、社会における「完全参加と平等」の実現を導く重要なテーマでもある。身体運動・スポーツによって得られる心身への効果をすべての人々が楽しんで受け取ることができるよう、どのような工夫ができるのか、実際のアダプテッド・エクササイズの体験もまじえて学んでいく。現実の社会と同様、スポーツの世界にも不平等が存在する。それを解消することをゴールとして、受講生それぞれで問題意識や疑問を持つことからスタートしてほしい。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	健康運動処方論	健康に関する諸問題や、情報が溢れる現代社会において、正しい情報を選択することが重要である。そのため本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を実行するための知識を学ぶ。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	健康運動実技指導論と実際	エアロビック(有酸素的)運動や生涯スポーツを通して生活習慣病の予防や改善、生涯にわたるスポーツの継続をはかる指導法の実践を学ぶ。健康運動やレクリエーションスポーツの特性や安全性を理解させ、その正しい基本動作を学習する。また、運動生理学などで得た知識を基に、誰でも手軽に安全に行なえる健康づくり運動やレクリエーション・スポーツの指導法など実践する。講義中の問題解決などグループディスカッションやグループワーク、学生によるプレゼンテーションを行なう。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	エアロビック・エクササイズ	アメリカから派生したエアロビック・ダンスは、エアロビクス運動のひとつであり、軽快なリズムの音楽とダンス・ステップを用いた運動プログラムです。本授業では、エアロビック・ダンスの基礎理論を理解し、実践するとともに、模擬のプログラム指導ができることを目的とする。大半の学生は初心者です。音楽のビートにのり楽しく、心地よい運動で心と体の関係に気づき、意識を高めましょう。講義中の課題解決などグループディスカッションやグループワーク、学生によるプレゼンテーションを行なう。また、課題やレポート等に対してのフィードバックは解説やレポートにコメントを返します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	ストレッチングの理論と実際	ストレッチングの理論を学び実践する。ストレッチングを繰り返し実践することで、筋肉、神経系等が活性化される。授業の前半では知識を習得し後半では身体の反応を活性化させるためストレッチングを回復、実践し、自身のストレッチプログラム(以下マイプログラムとする)を作成する。マイプログラムを作成にあたり、コミュニケーションカードを提出、次の時間にフィードバックしマイプログラムを完成する。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	筋力トレーニングの理論と実際	健康維持・増進や体力の向上のためのトレーニングと理論を学ぶ。また、様々なトレーニングに関する目的・方法・効果などについて理解を深める。講義によりトレーニングの知識を深め、実習を行い実践を通じて対話し、課題や問題を解決することにより、一層筋力トレーニングの理解度を高めることを目的とする。講義中の問題解決などグループディスカッションやグループワーク、学生によるプレゼンテーションを行なう。また、課題やレポート等に対してのフィードバックは解説やレポートにコメントを返します。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	スポーツ心理学	身体能力をフルに活かして勝敗を競うスポーツの現場には、日常生活とは異なる脳や精神の働きがある。スポーツ心理学は、スポーツの中での脳や精神の働きを科学的に分析するだけではなく、その働きをうまく活用して競技力の向上や楽しさの創造を目指す学問である。本講義では、体を動かす脳の仕組みから始めて、「たぐみな動きとは何か」「効果的な練習方法」「メンタルトレーニング」「リーダーシップ」といったスポーツパフォーマンスに関する心の働きや、「モチベーション低下」「あがり」「スランプ」といったスポーツの中でよく聞く状況の起こる仕組みと対処のヒントを学ぶ。これらの知識は、スポーツはもちろんのこと、演奏・演劇・ダンスといったパフォーマンスや、多くの人の前で話すとき、人に何かを指導するときなど、様々な場面で役立つはずなので、スポーツをしていない人にも広く受講してほしい。	

基礎教育科目	選択区分	体育科目群	救命救急処置		応急処置とは負傷者を医療機関に搬送するまでの一時的な対応である。適切な処置は生死を分けるだけでなく、苦痛を軽減することもでき、現場においては必要不可欠なものである。本講義では、教育現場やスポーツフィールドなどで発生が想定される外科傷害および症例を中心に正しい応急処置（手当）法を学習するとともに、その発生原因と予防策および再発予防に関する知識を習得することを目的とする。 なお、本授業は演習中心となるので、受講生の主体的かつ積極的な身体活動が必須となる。授業中も絶えずフィードバックを行い、受講生の緊急時における考え方や実践方法について学びを深めますので、体調管理には十分留意してください。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	運動障害と予防		教育およびスポーツ現場において医師がいない状況で外傷・障害が発生した場合、指導者がそれらに対応する必要性に迫られることになる。本講義では発育期にみられる代表的なスポーツ外傷・障害を紹介し、それらの発生要因を競技特性と筋骨格系の解剖面から考察し、非医療職である者にも可能である評価法と予防策について理解・習得することを目的として講義を行う。 なお、本授業は具体的な事例をもとに理解を求めるとともに、受講生の主体的かつ積極的な学習活動が必須となる。授業中も絶えずフィードバックを行い、受講生の運動中の事故と予防に関する学びを深めますので、体調管理には十分留意してください。	
基礎教育科目	選択区分	体育科目群	コーチング学		近年、スポーツをめぐる社会状況や部活動の在り方など目まぐるしく変化している。都市と地方におけるスポーツの在り方の違い、集団スポーツの存続など様々な問題を抱えています。新しい時代に対応できるスポーツのコーチングとは「競技者・愛好者の指導のみならず組織のマネジメントや社会を理解すると共に、スポーツそのものの未来に貢献し責任を負わなければならない活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学び実践で使えるようにすることを学ぶ。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	情報基礎		現代の情報化社会を生きて行くためには、単に今あるスマートフォンやパソコンなどの情報機器を使うようになればよいというわけではありません。コンピュータがどのような原理、仕組みで動き、またインターネット社会ではどのようにコミュニケーションをとるべきかを学ぶことで、急激に変化し続けるコンピュータや社会の動きに流されるだけの受身のユーザにならずに、新しい技術に対応する準備ができます。本講義では、コンピュータを主体的に使っていくために必要な基礎知識について、セキュリティを中心に概説します。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	学校教育における情報基礎	○	本授業では、一方的に授業を聞く時間だけでなく、受講生が実際にデジタル機器を触りながら、実践的に議論できるような時間をもつ。このため、毎回の授業内容について、基礎的な知識と共に背景・狙い・目的などを提示した上で、簡単なデジタル機器の操作を行った後、授業で行う作業の流れを提示した上で、必要に応じてグループを作り、各自が手と頭を使いながら学習を行う。また、途中からは簡単なプレゼンテーションを受講生が行う場合もある。以上のような、一斉学習・個別学習・協働学習を組み合わせた授業を毎回行うことにより、本授業を受講すること自体が、学校教育におけるデジタル機器の利活用を模範的に体験する機会となることを狙っている。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	情報と社会		本授業では、一方的に授業を聞く時間だけでなく、受講生が実際にデジタル機器を触りながら、実践的に議論できるような時間をもつ。このため、毎回の授業内容について、基礎的な知識と共に背景・狙い・目的などを提示した上で、簡単なデジタル機器の操作を行った後、授業で行う作業の流れを提示した上で、必要に応じてグループを作り、各自が手と頭を使いながら学習を行う。以上のようなことを通じて、情報通信技術を用いて本授業を受講すること自体が、情報と社会の関係について実践的に体験する機会となることを狙っている。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	パーソナル・コンピュータ活用技術A		本講義は、コンピュータとネットワークの利用に関する基礎知識と、パソコンの実習を通して、情報を適切に活用するための技能を養い、それを実践できるスキルを習得することを目的としています。 情報化社会で必要なルールやマナー、セキュリティの知識を得るとともに、Windowsの基本操作やインターネットを使った情報収集、文書作成・表計算・プレゼンテーションの代表的なソフトウェアの操作方法を会得するために、実践的な題材を用いて学習します。 知識分野については、コンピュータベースのクイズ形式(CBT)での学習により、効率的な知識獲得を目指します。また、ソフトウェアの実習については、毎回練習課題を実施し、間違いや不備がある場合はコメント付でフィードバックします。そのコメントに従い課題を修正する作業により、習熟度を高めていきます。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	パーソナル・コンピュータ活用技術B		本講義は、コンピュータとネットワークの利用に関する知識と、パソコンの実習を通して、情報を適切に活用するための技能を養い、それを実践できるスキルを習得することを目的としています。 情報化社会で必要なセキュリティの知識やフェイクニュース等の知識を得るとともに文書作成・表計算・プレゼンテーションの代表的なソフトウェアの、応用的な操作方法を会得するために、実践的な題材を用いて学習します。 知識分野については、コンピュータベースのクイズ形式(CBT)での学習により、効率的な知識獲得を目指します。また、ソフトウェアの実習については、毎回練習課題を実施し、間違いや不備がある場合はコメント付でフィードバックします。そのコメントに従い課題を修正する作業により、習熟度を高めていきます。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	コンピュータ・ネットワーク入門		本講義では、コンピュータ・ネットワークについて知識と利用方法の両面から学習します。情報ネットワーク・ユーザとして必要な知識は、技術の急速な発展に伴い、広範囲に広がり、かつ詳細化しています。また、毎年新しい技術が開発され、普及していくため、新技術に対応する能力も求められます。授業では、コンピュータ・ネットワークを構成する技術についての基礎的な知識、現状、利用方法、問題点について学習するとともに、ネット上のサイトや情報の信頼性の見分け方や高機能化した検索エンジンの利用、ネットワーク上の文献の引用演習、災害時のネットワーク活用に関する演習、ネットワークを用いた発信と共有の演習を行います。また、ネットワークを用いて、最新技術を体験する機会も設けています。提出された演習レポートはすべて教員が確認し、修正が必要な部分を修正方法とともにコメントし、フィードバックします。修正の際に自由に質問し、また必要に応じて教員と共に作業ができるように、授業時間内に修正の時間を設けます。さらに、コンピュータとインターネットが社会に与える影響とネットワーク技術発展の動向について理解を深めます。	

基礎教育科目	選択区分	情報科目群	大学生のための情報処理入門		大学生としてパソコンを用いたレポート・論文作成の準備になるよう、情報処理の入門としてタイピング練習と文書作成実習を行う。 毎回授業で作成した課題成果物が提出。必要に応じてチェック後返却または次回講義内において補足を行う。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	表計算入門		表計算ソフトウェアとは、コンピュータに計算や分析をさせるソフトウェアで、グラフ作成機能や抽出・検索などのデータベース機能も併せ持っています。ユーザは、数値や数式を入力し、計算や書式の条件を設定することで、効率的に計算を行ったり、見やすい表やグラフを作成することができます。このような表計算ソフトは、教育・研究機関では、スケジュール管理、レポートや論文作成、データ管理などに、またビジネス上では、財務シミュレーション、企画書、報告書などの用途で使われており、パソコン用ソフトウェアの代表的なものの一つです。本講義では、表計算ソフトのうち代表的なMicrosoft Excel（エクセル）を使用し、基本的な操作方法の実習を行います。表計算入門では、表計算ソフトを初めて使うことを想定して授業を進め、Excelの基本となる操作を身につけていきます。授業では基礎的な演習問題を繰り返し、さらに各演習問題ごとに、教員が採点し、修正をサポートするコメントをフィードバックします。コメントに基づき誤りや不備がなくなるまで課題に取り組むことで、正確な操作テクニックの定着を図っていきます。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	表計算中級		表計算ソフトウェアとは、コンピュータに、計算やグラフ作成、抽出・検索などのデータ分析をさせるパソコン用ソフトウェアです。本講義では、「表計算入門」講義に引き続き、代表的な表計算ソフトMicrosoft Excelを使用して、より発展的な内容を学習し、さまざまな関数の使い方やグラフィックの作成、ピボットテーブルの作成、マクロを使った自動処理などの機能について学習します。本講義では、Excelの資格試験の1つであるMicrosoft Certified Application Specialist Microsoft Office Excel 取得が可能な能力を身につけることができるように、実践的な例題を元に実習を行います。授業では実践的な演習問題を繰り返し、さらに各演習問題ごとに、教員が採点し、修正をサポートするコメントをフィードバックします。コメントに基づき誤りや不備がなくなるまで課題に取り組むことで、正確な操作テクニックの定着を図っていきます。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	データサイエンス入門		データサイエンスとは、様々なデータを分析し、その結果から新しい知見を導き出すことを目的とした分野です。この講義は、データサイエンスの分析がビジネスやスポーツなどにどのように適用されているかの事例を学習し、社会におけるデータサイエンスの現状、意義、展望、問題点を理解するとともに、データサイエンス分野を理解するための基本的な統計の知識を学習し、データの見方、可視化の実習を行う導入講義です。さらに、データの分析に必要なデータセンスや論理性を向上させるための演習を行っていきます。この講義では、データの集計・分析実習にExcelを用います。	
基礎教育科目	選択区分	情報科目群	データサイエンス演習		データサイエンスは、企業や研究所で専門家が高度な理論を駆使して行うイメージが残っていますが、実際は、小売店の売上分析や一般企業のマーケティングなどで、実際に販売等に従事する社員が分析を行い、活用しているケースが多くあります。 この講義では、データサイエンスの演習として、データ分析の基礎を学び、手法を実例に近いモデルに適用して分析していく実践的な演習を行うことで、データサイエンスの利用法と現状を学びます。 またデータセンスを向上させる演習も行っていきます。 データ分析にはExcelを用い、統計の理論的側面ではなく実践を主に学習します。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	臨床死生学論Ⅰ		「死生（いのち）」の問題は非常に多岐にわたるが、まずわが国の現状を概略的に通覧します。「死生」をめぐる問題は、歴史・文化・宗教などと深い関わりがあり様々な考え方があります。それゆえ、その差異による多様な考え方を紹介します。特にわが国は、無意識にしても仏教や神道との関わりが深い。それらを踏まえつつ、歴史的・文化的・宗教的にも異なる海外の死生観・倫理観との比較検討などにより、日本という風土にあった死生観・倫理観を育んでいきたい。 本講義は、「死生」をめぐる様々な問題に向き合い、「いま・ここ・わたし」の生のあり方を探求します。それゆえ、各問題に対する自らの考えを他の受講生と話し合うことで深める時間もあります。それを承知したうえで履修登録してください。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	臨床死生学論Ⅱ		臨床死生学は、「死」を非日常的なものとして遠ざける現代社会において、「死」を基点として自他のより良い「生」や社会のあり方を問い直すというものです。生きとし生けるもの全てに訪れる「老・病・死」や「死別」などのように向き合い、関わっていくべきかを探究するのが臨床死生学の醍醐味です。したがって、「老・病・死」や「死別」は決して個人一人の問題ではなく、人と人との関係性において共有されるべき問題であるという認識のもと、どのような寄り添い（サポート）ができるのかを、各々が自己理解ワークを通してながら学んでいきます。 本講義は、「いま・ここ・わたし」が悲嘆を抱える人たちに対して、どのような寄り添いができるかを探求します。それゆえ、各テーマに対する自らの考えを他の受講生と話し合うことで深める時間もあります。それを承知したうえで履修登録してください。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	哲学概論Ⅰ		西洋哲学史上の代表的な哲学者たちを取り上げその思想を紹介し、西洋哲学の長い歴史の中で哲学者たちが一体何を問題にしてきたのか、哲学的なものの見方や考え方はどのようなものなのかを、できる限りわかりやすく概観していきます。 単に哲学についての知識を得るというのではなく、自分自身で「考える」という哲学的営みの入門にもなるような「哲学入門」を目指します。 前期は古代から中世までを取り上げます。後期はルネサンス以降、現代までの哲学を扱い、前後期通してソクラテスやプラトンの古代哲学から現代までの西洋哲学史を通覧します。	

基礎教育科目	選択区分	総合科目群	哲学概論Ⅱ	西洋哲学史上の代表的な哲学者たちを取り上げその思想を紹介し、西洋哲学の長い歴史の中で哲学者たちが一体何を問題にしてきたのか、哲学的なものの見方や考え方はどのようなものなのかを、できる限りわかりやすく概観していきます。 単に哲学についての知識を得るというのではなく、自分自身で「考える」という哲学的営みの入門にもなるような「哲学入門」を目指します。 前期は古代から中世までを取り上げます。後期はルネサンス以降、現代までの哲学を扱い、前後期通してソクラテスやプラトンの古代哲学から現代までの西洋哲学史を通覧します。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	東洋史概説Ⅰ	本講義では、新石器時代末期から魏晉南北朝時代（紀元前2000年頃～6世紀）までの中国の歴史を概観する。各王朝の興亡を通時的にたどりながら、とくに次の3点に焦点をあてる。①王朝制の形成、②支配構造の変遷、③行政システムの展開、これらのテーマを中心として、中国の歴史に関する知識を深めることを目的とする。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	東洋史概説Ⅱ	本講義では、隋王朝の成立から中華人民共和国（6世紀～20世紀初め）までの中国の歴史を概観する。各王朝の興亡を通時的にたどりながら、とくに次の3点に焦点をあてる。①中国王朝と征服王朝の対立構造、②世界情勢とのリンク、③現代中国と伝統中国との相違点、これらのテーマを中心として、中国の歴史に関する知識を深めることを目的とする。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	自然地理学Ⅰ	1～7万年前の最終氷期以降の気候変動が日本における我々の生活や自然にどのように関わっているのか？、その最終氷期以降の気候変動はアフリカなどの世界の自然にどのように関わっているのか？近年の温暖化は世界の氷河や植生分布をどのように変化させているのか？、環境変化は高山や砂漠などの厳しい自然や生態、住民生活や社会にどのような影響をもたらすのか？、海外調査はなぜおもしろく、人生を有意義にさせるのか？について、そのつど地図帳を使用しながら考え、理解を深める。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	自然地理学Ⅱ	この授業では気候変動が自然や人間社会、文化、歴史にどのような影響を与えてきたかについて理解を深める。火山はどのように誕生し、火山噴火が自然や人間社会、文化、歴史にどのような影響を与えてきたかについて理解を深める。京都周辺の地形について理解を深める。住宅はどのような地形が安全で、どのような地形が災害に遭いやすいかを理解する。インド山岳地域のチベット仏教や自然崇拜について理解を深める。海外調査はなぜおもしろく、人生を有意義にさせるのか？について、そのつど地図帳を使用しながら考え、理解を深める。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	人文地理学Ⅰ	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野です。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容について学習します。本授業の前半では地理学の基本ツールである地図の使い方・読み方を身につけ、それをうけて後半では人口をベースとして地域の見方を学んでいきます。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	人文地理学Ⅱ	人文地理学は、日本・世界の各地域で展開されている人間の諸活動を地理学的な視点・方法で考察する地理学の一分野です。この授業では、私たちが生活している現在の日本・世界の諸地域とそこに住む人々の社会、生活や生産活動の特徴を地理学的に理解するために必要な基礎的内容について学習します。本授業では都市と村落について、それぞれがもつ機能と産業構造をベースとして「分布（集中あるいは集積・分散、立地）、移動あるいは流通、地域・地域構造」に焦点を当てて学んでいきます。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	地誌学Ⅰ	地誌学は、地域(場所)を様々なスケールでとらえて、対象とする地域を総合的に理解し、地域の特性を明らかにすることを目的とする地理学の一分野です。地域のスケールは世界・日本・都道府県など様々であり、地理的条件（自然・人文）が関係しあって必ず地域差が現れることにより、2つとして同じ場所は存在しません。本授業では地誌学の基本的な概念（地域・環境等）を学習し、アジアを中心に自然環境・人文環境に着目して地域理解の方法を学んでいきます。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	地誌学Ⅱ	地誌学は、地域(場所)を様々なスケールでとらえて、対象とする地域を総合的に理解し、地域の特性を明らかにすることを目的とする地理学の一分野です。地域のスケールは世界・日本・都道府県など様々であり、地理的条件（自然・人文）が関係しあって必ず地域差が現れることで2つとして同じ場所は存在しません。本授業では地誌学の基本的な概念（地域・環境等）を学習し、アメリカやヨーロッパを中心に自然環境・人文環境に着目して地域理解の方法を学んでいきます。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	日本政治史Ⅰ	この講義では、明治以降の官僚制について学び、日本の政治に官僚がどのように関わったのかについて学んでいきます。法制史や教育史にも深く関連する内容となります。前期では特に明治期について講義をします。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	日本政治史Ⅱ	この授業では、明治以降の近代官僚制について学び、日本の政治に官僚がどのように関わったのかについて学んでいきます。政治史ではありませんが、法制史や教育史にも深く関連する内容となります。後期は特に明治後期から昭和戦前期について講義をします。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	日本経済史Ⅰ	古代から中世後期（戦国時代）までの日本列島を中心とした経済の歴史について講義する。特にこれまで学んできた教科書的理解を前提にした上で、その通説的理解とは視点的異なる歴史学的見方を提示する。各時代の日本社会の経済がどのような構造になっていたのかを、当時の政治状況なども踏まえながら理解する。	

基礎教育科目	選択区分	総合科目群	日本経済史Ⅱ	近世から近代初期までの日本列島を中心とした経済の歴史について講義する。特にこれまで学んできた教科書的理解を前提にした上で、その通説的理解とは視点の異なる歴史学的見方を提示する。近世から近代初期の日本社会の経済がどのような構造になっていたのかを、当時の政治状況なども踏まえながら理解する。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	図書館概論	司書課程の導入科目として、「図書館に関する学習」全般にわたり基礎的な内容を学ぶ。具体的には、図書館が持つ社会的意義と役割を理解したうえで、その現状・課題・展望を理解する。館種別にそれぞれの図書館の制度と機能を理解する。公共図書館が地域社会と住民に果たしうる役割を理解する。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	図書館制度・経営論	図書館が制度化された過程を知り、図書館がその使命と目的を実現するための経営方法を理解する。図書館の制度化、関連する法律を理解する。図書館サービスの設計を理解する。情報資源・図書館施設・人的資源・資金について、それぞれの管理方法を理解する。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	古代史概説	日本の古代について、政治・制度・社会・文化等の概要を講義する。古代史研究において議論されてきた問題を取り上げ、研究成果を紹介しながら、日本古代史を概説する。到達目標は、日本の古代について、高校の教科書以上の知識を得て、自分なりに流れを説明できるようになることである。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	中世史概説	日本中世史について、最新の研究成果をもとに講義する。高校以前の日本史で学ぶ中世の主要なテーマ・事件等が現在の日本史研究においてどのように理解されているのかを知ることが主眼である。テーマは、中世日本の歴史的特質を追究することである。日本の中世は武士・公家・神社といった様々な権力が存在し、度重なる政争・内乱等によってそれぞれの立場が頻りに交替した時代であった。そうした中世史の特色を示す動向をめぐる研究は日々見直されている。本講義では、院政期から織豊期までの日本中世史の著名なテーマを取り上げ、最新の研究成果をもとに解説し、受講生が現段階の日本史学研究における中世史像の理解を通して、現代の日本へと続く様々な課題の考察と問題解決のための視角を習得することを目的とする。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	近世史概説	日本の近世について、制度・政治・社会・文化等について、その概要を講義する。当該講義では日本近世史の中でも著名なテーマを取り上げ、江戸幕府の成立から崩壊までの状況について、制度・政治・社会・文化等を解説し、その知見を深めてもらう事を目標とする。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	近現代史概説	近現代史概説は、日本近現代史について概説する科目である。近現代日本の形成と展開を国際環境と関連づけて検討する。具体的には、「授業計画」に記載された各テーマを中心に講義を進めていく。講義では、これまでの歴史学研究の成果（研究史）に基づいて、研究史上の論点の検討や史料の分析（史料批判）を含めて、歴史学から見た日本近現代史の歴史像について検討する。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	倫理学Ⅰ	本科目では、西洋の倫理学の歴史を辿りながら、わたしたちはどう生きるべきかについて、改めて批判的に考えることを目指します。倫理学は、わたしたちはどう生きるべきかという、人間にとっての根本的な問題を扱う学問です。西洋では、古代ギリシャで哲学が成立して以来、その中心にはいつも、どうすればわたしたちは「たんに生きるのではなく、よく生きる」（ソクラテス）ことができるのか、という問題の探究がありました。そうした探究にあって問われるのは、たとえば、善とは何か、正義とは何か、幸福とは何か、といった問題です。本科目では、古代から近代までに活躍してきた、主要な哲学者たちの倫理思想を取り上げます。先人たちの築いてきた様々な議論の積み重ねを読み解きながら、受講者が、倫理的な問題について根拠に基づいて自らの意見を形成していくことを期待します。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	倫理学Ⅱ	本科目では、西洋の倫理学の歴史を辿りながら、わたしたちはどう生きるべきかについて、改めて批判的に考えることを目指します。倫理学は、わたしたちはどう生きるべきかという、人間にとっての根本的な問題を扱う学問です。西洋では、古代ギリシャで哲学が成立して以来、その中心にはいつも、どうすればわたしたちは「たんに生きるのではなく、よく生きる」（ソクラテス）ことができるのか、という問題の探究がありました。そうした探究にあって問われるのは、たとえば、善とは何か、正義とは何か、幸福とは何か、といった問題です。本科目では、前期の「倫理学Ⅰ」から引き続いて、近代から現代までに活躍してきた、主要な哲学者たちの倫理思想を取り上げます。先人たちの築いてきた様々な議論の積み重ねを読み解きながら、受講者が、倫理的な問題について根拠に基づいて自らの意見を形成していくことを期待します。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	書道概論Ⅰ	書を志す諸君にとっては、「書くこと」が一番の関心事であろう。しかし、書という文化を人々に伝えていこうとする場合、書そのものを「語ること」も重要となる。あたりまえのように思っている事柄に疑問の目をむけ、言葉で説明する努力を続けなければならない。授業では、書に関するさまざまな問題を取り上げ、それらを考察することによって、「書とはどのような芸術か」を考えていく。一つの問題について、実習などもふまえてさまざまな角度から討議する形式をとるので、積極的な発言を期待する。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	書道概論Ⅱ	書を志す諸君にとっては、「書くこと」が一番の関心事であろう。しかし、書という文化を人々に伝えていこうとする場合、書そのものを「語ること」も重要となる。あたりまえのように思っている事柄に疑問の目をむけ、言葉で説明する努力を続けなければならない。授業では、書に関するさまざまな問題を取り上げ、それらを考察することによって、「書とはどのような芸術か」を考えていく。一つの問題について、実習などもふまえて、さまざまな角度から討議する形式をとるので、積極的な発言を期待する（AL）。	

基礎教育科目	選択区分	総合科目群	日本文学概論（古典）	日本の古典において「物語」と名の付くものの有りようはじつにさまざまである。『竹取物語』や『源氏物語』の「物語」は「作り物語」であるが、『栄花物語』のような歴史物語の「物語」は、『竹取』や『源氏』の「物語」とは違い、事実をもとにした「物語」である。『平家物語』などの軍記物語の物語もそうである。一方、『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』などの説話の「物語」も『竹取』や『源氏』とは違うが、これは何だろうか。また、『伊勢物語』や『大和物語』などの「歌物語」の「物語」は何だろうか。同じ「物語」を名乗りながら、その様相はかなり異なっている——そうした日本の古典に特徴的な「物語」の有りようを知ること、日本の古典を深く理解する上で重要である。この授業では、「物語」に注目して、日本の古典のさまざまな有りようを見てゆく。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	日本文学概論（近現代）	この授業では講義形式で、日本近現代文学史を概観する。講義をつうじて、文学の歴史的な展開を把握することで、これから日本現代文学を学ぶうえで土台となる文学史の基礎的な知識を深めていく。自身の専門的な研究対象を決定するにあたり、多様な選択肢を用意できるように、さまざまな文学史的・文化史的な固有名詞に触れてもらいたい。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	福祉サービスの組織と経営	社会福祉基礎構造改革に伴い、福祉サービスの提供者、とりわけ、戦後のわが国の福祉事業を中心的に担ってきた社会福祉法人は、これまでの「運営」から「経営」へと、考え方の転換を求められました。同時に、社会福祉法人だけでなく、多様な経営主体が福祉サービスに参入するようになっています。この授業では、「もし、自分が福祉サービスの経営者だったら」という視点に基づき、時代や環境の変化に直面する福祉サービスについて、サービスマネジメント、リスクマネジメント、人材マネジメント、財務マネジメント等々を、社会福祉事業経営の具体的な実態を踏まえて学びます。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	法学（国際法を含む）Ⅰ	法は、私たちが社会生活を送るときに、密接に関わるものである。例えば、普段の何気ない買い物も車を運転することでも、就職するということにも、すべて契約や権利・義務などの法律問題が関わってくる。さらに、交通事故の加害者になってしまう事もあるかもしれないし、仕事を解雇されて失業者になってしまうこともある。交通事故の場合には、被害者との関係が問題になるし、解雇なら、会社との関係が問題となる。このような身の回りの出来事や社会問題を法的に考えるための基礎を学ぶ。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	法学（国際法を含む）Ⅱ	法学Ⅰの講義を受け、法学Ⅱにおいては、日本国憲法、行政法及び国際法を学ぶ。日本国憲法では、法の支配の重要性を踏まえつつ、憲法の三原則を学ぶ。特に、国民の基本的な人権を守るため、国民主権、平和主義があることを理解する。行政法では、現在約2,000ある法律の中で行政法が7、8割を占め、日常生活を行政法により規律されていること、及び、行政作用法及び行政救済法の基本的な考え方を学ぶ。国際法では、人権、国際紛争、地球規模課題について、国際法がどのようにかわり、その課題解決のために機能しているかを学ぶ。法学Ⅰ及び法学Ⅱを学ぶことにより、法学という視点から社会を理解する力をつけていく。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	社会政策論Ⅰ	社会政策論Ⅰは「ライフコースに対応する社会政策」をテーマにあらかじめ決められたグループの順番に従い学生が調べたことを10分程度で報告します。その後、教員が30分程度でフォローの講義と討論のテーマを提示します。残された時間で、学生が個人、グループ、全体で討論します。学生自らが考え、問題意識を持ち、主体的に行動する力を身につけてほしいと考えています。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	社会政策論Ⅱ	社会政策論Ⅱは「ライフイベントに対応する社会政策」をテーマにあらかじめ決められたグループの順番に従い学生が調べたことを10分程度で報告します。その後、教員が30分程度でフォローの講義と討論のテーマを提示します。残された時間で、学生が個人、グループ、全体で討論します。学生自らが考え、問題意識を持ち、主体的に行動する力を身につけてほしいと考えています。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	権利擁護を支える法制度	クライアントの権利擁護を支える憲法・民法・行政法の関連する条文の内容を理解し、権利擁護の意義を理解する。権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際を、事例を交えて理解する。権利擁護活動を実践する過程で直面しうる課題を、法的観点から理解する。ソーシャルワークにおいて相談援助活動において必要となる、日常生活支援事業や成年後見人制度（後見人等の役割を含む）について理解するために、社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な事例を挙げ具体的実際の支援方法を演習を交えて体験し理解する。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	社会学と社会システム	「社会を見つめる“メガネ（ものの見方）”を手に入れよう！」社会学と書いて、みなさんは「どのようなことを学ぶのだろうか？」と思われたのではないのでしょうか。社会学は、社会の現象（人と人の関わり）を対象とした学問です。しかしながら、その「社会」とは何なのかと問われれば、非常につかみどころがなくイメージしにくいものです。社会学は、このような捉えがたい社会や人の行為をしつくりとした形で捉えようとした先人の試みであると言えます。先人の肩の上に乗ってより遠くを見つめてみませんか。「社会学と社会システム」では、受講生一人ひとりが社会を捉えるためのメガネ（ものの見方）を手に入れることを目指し、①社会学の基本的な知識や概念を習得し、②社会学の広い視野に立つて、現代の社会的現象を見つめ直すことで考察を深めます。なお、講義の内容をより深く理解するため、適時、受講生同士の対話（ペアコミュニケーション）を行います。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	障害者・障害児心理学	「障害」という言葉にまつわる定義や概念は複雑であり、実際に障害のある人の状態は多様である。本授業では、障害の種類やそれらの内容と特徴を理解することを目的とする。具体的には、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害の概要について触れ、それぞれの行動特徴や精神機能、心理的特徴の基本概念を理解し、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について学習する。本授業は講義が中心となるが、授業内にレポーター課題を課して、問題意識と思考力を身につける。	

基礎教育科目	選択区分	総合科目群	臨床心理学概論	臨床心理学の入門講座であり、必須科目である。 臨床心理学の成り立ちについて学び、代表的な理論を理解することを通じて、こころの不調の原因を理解し、支援を実践するための理論とスキルを学ぶ。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	教育・学校心理学	教育現場で子どもを支援する時、子どもの心理についての深い理解があることで、本当の意味での支援が可能になります。本講義では、教育・学校心理学の知識や理論を学びつつ、教育現場で生じる様々な問題について理解を深め、子どもをいかに支援するかを考えていきます。可能な限り具体的な実践事例（書籍、論文などに所収されたもの）を用いながら、支援について考えられるようになることを目指します。 基本的には講義形式でスライドを用いて解説を行います。なお、理解を深めるためグループワークを行うことがあります。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	発達心理学	心身の発達の理解の基礎となる、胎児期、乳幼児期から老年期に至るまでの発達について学びます。また、発達心理学の概念や歴史、心理的支援につながる知識についての内容も含まれます。人々がどのような経緯を経て発達（変化）していくのかを、各発達段階ごとに理論を学びます。	
基礎教育科目	選択区分	総合科目群	社会・集団・家族心理学	本講義では、家族という集団、人間関係に焦点を当て、①対人関係ならびに集団における人の意識および行動についての心の過程、②人の態度および行動、③家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響について、臨床心理学的問題の検討、および、社会心理学の理論や家族心理学の理論を通じて学ぶ。	

学校法人花園学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和8年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
花園大学				花園大学				
文学部				文学部				
仏教学科	35	—	140	仏教学科	35	—	140	
日本史学科	65	—	260	日本史学科	65	—	260	
日本文学科	60	—	240	日本文学科	60	—	240	
社会福祉学部				社会福祉学部				
社会福祉学科	80	—	320	社会福祉学科	80	—	320	
臨床心理学科	85	—	340	臨床心理学科	85	—	340	
児童福祉学科	80	—	320	児童福祉学科	<u>0</u>	—	<u>0</u>	令和8年4月募集停止
計				計				
	405		1620		405		1620	
花園大学大学院				花園大学大学院				
文学研究科				文学研究科				
仏教学専攻(M)	5		10	仏教学専攻(M)	5		10	
日本史学専攻(M)	5		10	日本史学専攻(M)	5		10	
日本文学専攻(M)	5		10	日本文学専攻(M)	5		10	
仏教学専攻(D)	2		6	仏教学専攻(D)	2		6	
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				
社会福祉学専攻(M)	10		20	社会福祉学専攻(M)	10		20	
				教育学部				
				初等教育学科	<u>80</u>	—	<u>320</u>	学部の設置(認可申請)
				計				
					405		1620	